福岡市観光客動態
調査報告書

平成 22 年3月

福岡市

目 次

第１章 調査の概要 1

１－１　調査目的 1
１－２　調査方法 1
１－３　調査実施日 1
１－４　調査項目 1
１－５　調査実施機関 1
１－６　調査地点 2
１－７　用語の定義 2
１－８　調査結果利用上の注意 3

第２章　福岡市における観光の変化と特徴 4

２－１　性別・年齢別構成 4
２－２　居住地域 5
２－３　旅行日数 7
２－４　立ち寄り状況 8
２－５　観光消費額 9
２－６　外国人観光客 10

第３章　調査結果の分析 12

３－１　国内観光客 12
３－１－１　性別・年齢別構成 12
３－１－２　居住地域 13
３－１－３　旅行日数 16
３－１－４　旅行グループ 19
３－１－５　来訪回数 20
３－１－６　立ち寄り状況 21
（１）立ち寄り状況（市内・市外） 21
（２）市内での立ち寄り施設 22
（３）本市以外での立ち寄り先 30
（４）立ち寄り施設相互の結びつき 31
３－１－７　市内での観光形態 32
（１）移動手段 32
（２）宿泊状況 34
（３）宿泊形態 36
（４）１人当たりの観光消費額 37

３－２　外国人観光客 39
３－２－１　性別・年齢別構成 39
３－２－２　居住国・地域 40
３－２－３　旅行日数 41
３－２－４　旅行グループ 42
３－２－５　来訪回数 43
３－２－６　立ち寄り状況 44
（１）立ち寄り状況（市内・市外） 44
（２）市内での立ち寄り場所 44
（３）天神周辺地区での立ち寄り場所 45
（４）本市以外での立ち寄り先 46
３－２－７　市内での観光形態 47
（１）移動手段 47
（２）宿泊状況 48
（３）１人当たりの観光消費額 50

第４章　観光の動向と本市観光の方向性 51

４－１　観光の動向 51
（１）国内・海外旅行の動向 51
（２）訪日外国人の動向 51
（３）中国からの訪日旅行者の動向 52
（４）「九州１日観光圏」の拡大 53
４－２　本市観光の方向性 54
（１）本市における観光の意義 54
（２）初めての訪問でもわかりやすい情報提供の取組み 54
（３）本市への立ち寄りを増やす取組み 55
（４）宿泊客を増やし、日帰り客を長く滞在させる取組み 55
（５）都市観光地としての魅力向上の取組み 56
（６）まちの回遊性を強化する取組み 57
（７）アジア大交流時代に向けた取組み 57
（８）これからの本市観光の方向性 59

第５章　観光入込客統計調査（国基準）の試行結果 60

５－１　観光入込客統計調査（国基準）の概要 60
（１）調査目的 60
（２）調査内容 60
（３）調査方法 60

（４）調査地点.....60
（５）調査回数.....61
５－２　調査の試行結果.....61
（１）年間観光入込客数.....61
（２）年間観光消費額.....61
●参考資料：調査票（日本語版）

第 1 章　調査の概要

第１章 調査の概要

１－１　調査目的

本調査は、福岡市を訪れた観光客についてその実態を調査し、交通機関の利用状況をはじめ、観光レクリエーションの目的、市内及び市外への立ち寄り状況、旅行日数、観光消費額等を明らかにして、今後の本市における観光諸施策を効果的に推進するための基礎資料を得ることを目的とするものである。

１－２　調査方法

市内の交通機関及び観光施設で調査員の直接面接聴取法による調査を行った。

１－３　調査実施日

①平成 22 年 3 月 18 日（木曜日）　天候　晴れ時々曇り一時雨
　　気温　最低 5.9℃　最高 13.8℃
②平成 22 年 3 月 21 日（日曜日）　天候　晴れ
　　気温　最低 9.4℃　最高 12.6℃

①（平日）、②（休日）のいずれも午前 10 時から午後５時まで実施

※ただし博多港ターミナル（国内航路）のみ、休日は始発便の関係で午前 9 時から調査を開始した。

１－４　調査項目

- 来福客の性別、年齢
- 居住地域
- 旅行目的
- 利用交通機関
- 旅行グループの形態と人数
- 旅行日数
- 本市への来訪回数
- 市内での立ち寄り先
- 本市以外での立ち寄り先
- 天神地区での立ち寄り先
- 本市内での利用交通機関
- 本市内での宿泊の有無
- 本市での観光消費額

１－５　調査実施機関

①監修・分析

九州産業大学　商学部観光産業学科教授　千相哲

②調査実施・分析

㈱よかネット

１－６　調査地点

今回は、従来の本市の観光動態調査に併せて、国の全国共通の基準・方法に基づく観光入込客統計調査を試行する（第５章参照）こともあり、従来の交通機関の７地点に、国の基準に基づく観光施設の 10 地点を加えた以下の 17 地点で調査を行った。標本数の総計は 1,247。

（１）交通機関（７地点）

ＪＲ博多駅、西鉄福岡（天神）駅、地下鉄天神駅、福岡空港（国内線）、福岡空港（国際線）、博多港（国内航路）、博多港（国際航路）

（２）観光施設（10 地点）

ホークスタウン、キャナルシティ博多、ベイサイドプレイス博多、マリンワールド海の中道、博多座、福岡観光会館はかた、福岡タワー、能古島アイランドパーク、博多町家ふるさと館、大濠公園内日本庭園

※上記の 10 施設は、国の観光入込客統計調査を試行することを踏まえ、市内の観光施設のうち、目的・性質・規模・位置などを総合的に考慮して独自に選定した。

１－７　用語の定義

①来福客

本調査における来福客とは、下記の理由で福岡市を来訪している人をいう。

ａ. 福岡市外に居住している人

ｂ. 下記の目的で旅行している人

ア　観光・娯楽（名所・旧跡めぐり、行楽、ショッピング、飲食、映画、スポーツ観戦、コンサート、講演会、遊園地、ヘルスセンターなど）

イ　仕事（社用、公用、商用、会議、研修など）

ウ　家事（帰省、医療、冠婚葬祭、日常的買い物など）

エ　仕事兼観光・娯楽

オ　家事兼観光・娯楽

②来福観光客

①の来福客のうち、上記のア、エ、オの目的で福岡市を旅行している人をいう。

③国内観光客

②の来福観光客のうち、国内に居住する人をいう。

④外国人観光客

②の来福観光客のうち、日本以外の国に居住する人をいう。

⑤宿泊客

本調査における旅行で宿泊施設に１泊以上宿泊する人をいう。

⑥市内・市外の立ち寄り状況

②の来福観光客の市内・市外の立ち寄り状況については、下記のとおり定義する。

ａ.市内のみ　福岡市のみを旅行している人

ｂ.市外のみ　福岡市を交通アクセスの結節点としてのみ利用する人

ｃ.市内・市外両方　福岡市及び他都市を旅行している人

１－８　調査結果利用上の注意

①単位未満は原則として四捨五入したため、総数とその内訳の合計とは必ずしも一致しない。

②２つ以上の回答（複数回答）を求めたものの割合の合計は100%を超える。

③本書中の「前回調査（平成16年度調査）」とは、平成17年3月13日(日)・17日(水)に実施した「福岡市観光客動態調査」の結果をいう。調査方法、天候の違いなどの影響はあるが、前回調査からの変化や特徴から、全体的な傾向を読み取ることは可能であると考える。

④本調査では、平成22年度から国の「観光入込客統計」で使用される全国共通基準の調査票を用いている。

⑤利用交通機関別のサンプル数の割合は、実際に当該交通機関を利用する来福客数の割合とは一致していない。

⑥「平日」とは平成22年3月18日(木)、「休日」とは平成22年3月21日(日)に調査した結果を集計したものである。なお、特に「休日」、「平日」の記載がない場合は、休日と平日を合計した結果である。

⑦「福岡空港（国際線）」、「博多港（国際航路）」では、外国人の調査員を活用し、特に「外国人」のサンプルを多く回収している。

⑧観光消費額の算出については、今回使用した国の共通基準の調査票に「買い物代」に該当する項目がないことから、前回調査との比較上、前回調査の費用を参考に今回の他項目の費用を用いて推計を行っている。

⑨本調査では、より正確な来福客の傾向を把握するため、市内10か所の観光施設で実施した調査のデータも活用して、結果の分析を行っている。

⑩本調査は、福岡市独自の方法により行ったものであり、他都市との比較を目的として作成したものではない。

第2章　福岡市における観光の変化と特徴

第２章　福岡市における観光の変化と特徴

本章では、今回の調査と５年前の前回調査を比較して、福岡市における観光の変化と特徴をまとめる。

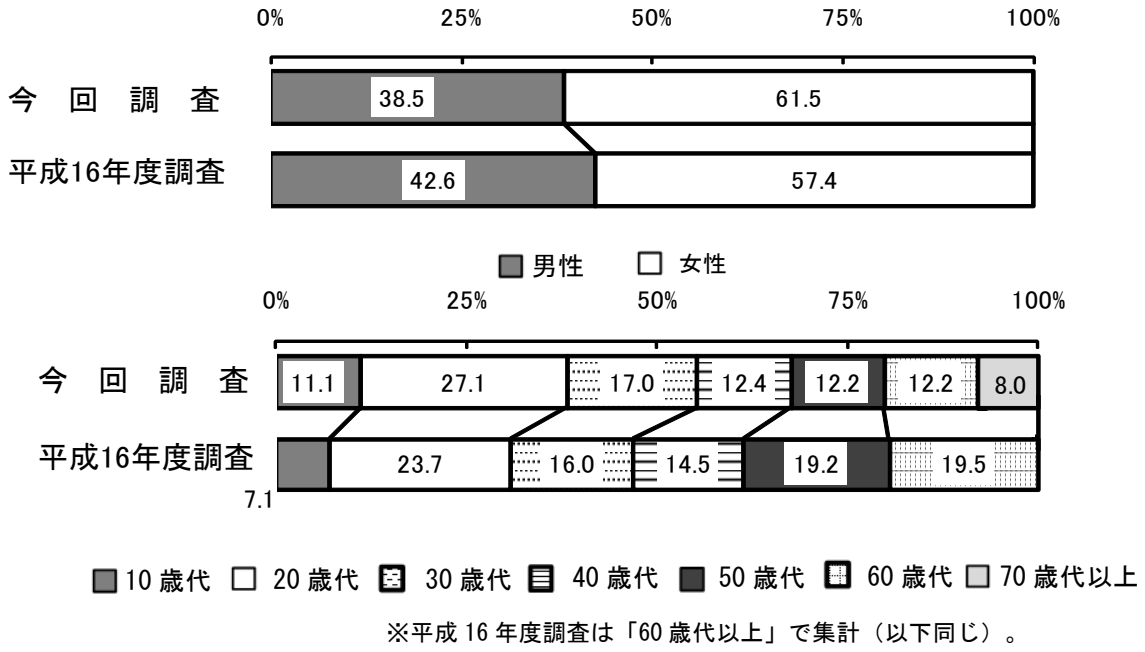
２－１　性別・年齢別構成

性別では「女性」、年齢別では「10 歳代」と「20 歳代」の割合が 3～4 ポイント増加。

来福観光客（外国人観光客を除く）の性別では「男性」が 38.5%、「女性」が 61.5%と女性が男性を大きく上回っており、前回調査と比べて女性の割合が 4.1 ポイント増えている。

また、年齢別では「20 歳代」が 27.1%と最も高く、次いで「30 歳代」が 17.0%である。前回調査と比べて、「10 歳代」が 4.0 ポイント、「20 歳代」が 3.4 ポイント増加している。

図表２－１　性別・年齢別構成（前回調査との比較）



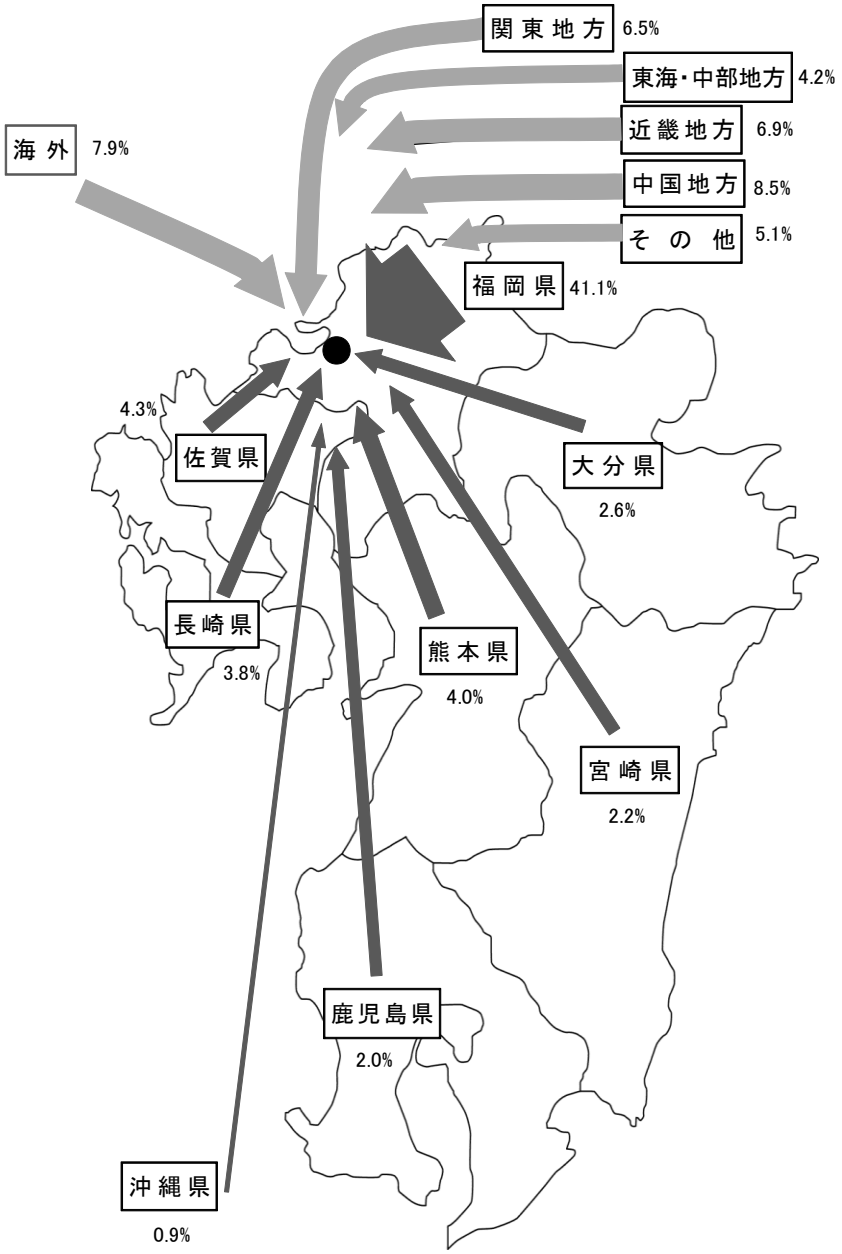
※平成 16 年度調査は「60 歳代以上」で集計（以下同じ）。

２－２　居住地域

「福岡県」が４割、福岡県外の九州から２割。九州全体では６割を占める。

来福観光客（外国人観光客を含む）を居住地域別にみると、「福岡県」が 41.1％と最も高く、福岡県外の九州からの２割とあわせ、九州全体では６割を占める。

図表２－２　来福観光客の居住地域別割合



※比較的割合が低い四国、北陸、東北、北海道は
「その他」に含まれている。

前回の調査結果と比べると、「福岡県」は、ほぼ同率で、「福岡県外の九州」は 27.2%から 19.8%と、7.4 ポイント減少している。一方で、九州外は 3.9 ポイント増加している。

また、「海外」も増加傾向にあり、国内では「安・近・短」の旅行に人気が集まるなかで、アジアの海外旅行ブームや外国クルーズ客船の来航などにより、外国人観光客は今後大幅な増加が期待される。

図表２－３　居住地域別割合（外国人観光客を含む）（前回調査との比較）

（%）

	九州			九州外						海外
	小計	福岡県	福岡県外の九州	小計	中国地方	近畿地方	東海・中部地方	関東地方	その他	
今　回	60.9	41.1	19.8	31.2	8.5	6.9	4.2	6.5	5.1	7.9
休　日	66.7	43.5	23.2	26.6	8.3	6.3	3.7	4.7	3.6	6.7
平　日	52.3	37.5	14.8	37.9	8.6	7.8	5.1	9.2	7.2	9.8
H16年度調査	68.7	41.5	27.2	27.3	5.8	5.2	3.2	8.0	5.1	4.0
休　日	69.5	40.3	29.2	26.6	5.7	4.8	3.1	7.6	5.4	3.9
平　日	67.5	42.8	24.7	28.4	6.1	5.7	3.4	8.5	4.7	4.1

※福岡県外の九州とは、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の合計。
※割合が低い四国、北陸、東北、北海道は「その他」に含まれている。

「福岡県外の九州」の内訳をみると、「佐賀県」が 21.4%と最も高く、次いで「熊本県」、「長崎県」の順となっている。

また、休日と平日で比べると、休日では「長崎県」、平日では「佐賀県」からの割合が高くなっている。

図表２－４　福岡県外の九州からの来福観光客の県別割合

（%）

	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
合　計	21.4	19.4	20.2	13.2	11.3	10.1	4.4
休　日	19.0	21.8	17.8	15.6	12.1	10.3	3.4
平　日	27.0	13.5	25.6	8.1	9.5	9.5	6.8

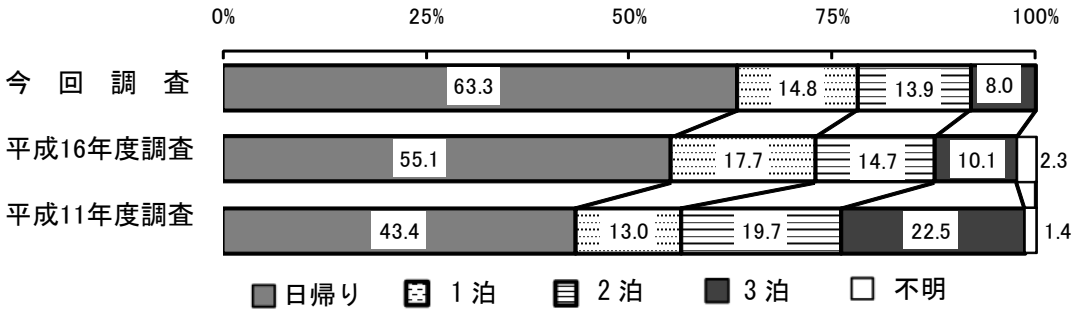
２－３　旅行日数

「日帰り」が増加し、宿泊日数が短くなる傾向。
また、市内宿泊客の宿泊日数は増加している。

来福観光客（外国人観光客を除く。以下この章において同じ）の旅行日数は、「日帰り」が 63.3％を占めている。

前回、前々回の調査と比較すると、「日帰り」が増加し、「２泊」、「３泊以上」が減少してきている。

図表２－５　旅行日数（前回及び前々回調査との比較）



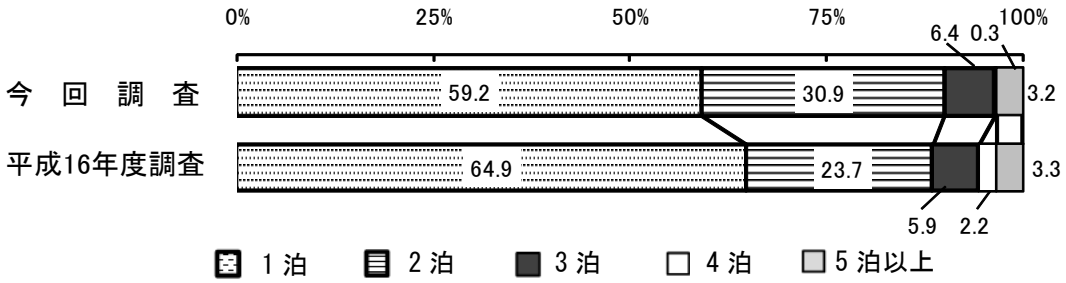
高速道路網の整備、高速バスの発達、九州新幹線の部分開業などにより、九州エリアにおける時間距離は着実に短くなってきている。九州各県から本市への所要時間の短縮は、気軽な「日帰り」旅行の増加につながっているといえる。

さらに、平成 23 年春の九州新幹線鹿児島ルートの全線開通により、本市から鹿児島までが日帰り観光圏内に入り、「九州１日観光圏」が拡大する。移動時間の短縮を活かし、九州内が連携して新しい魅力づくりや回遊性の向上を図るなど、観光客の滞在時間が長くなるような取り組みが求められる。

本調査により算出した１人当たりの観光消費額では、宿泊観光客が日帰り客を上回っており（日帰り 15,349 円、宿泊 26,890 円）、滞在時間が長くなることが消費額の増加につながっている。（「2－5 観光消費額」(P.9)参照）

なお、今回調査での市内宿泊者の宿泊日数では、前回調査と比べて２泊、３泊が増えており、長期滞在者の割合が増えている。

図表２－６　市内宿泊客の宿泊日数（前回調査との比較）

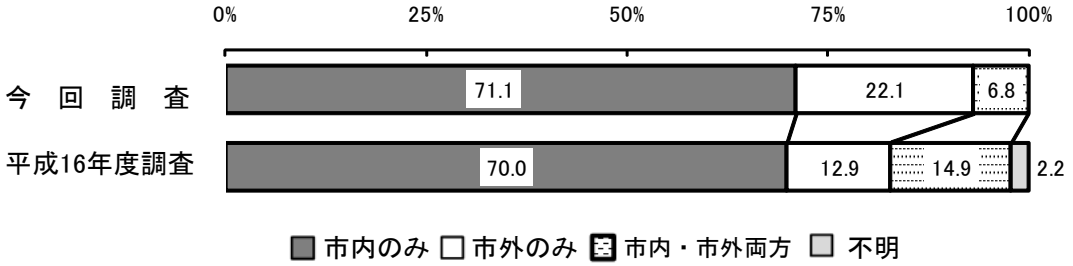


２－４　立ち寄り状況

「市内のみ」、「市外のみ」が増加、本市での立ち寄り施設は「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」が約 9 割。前回調査より「動植物園・公園など」、「旧跡・神社・仏閣」が増加。

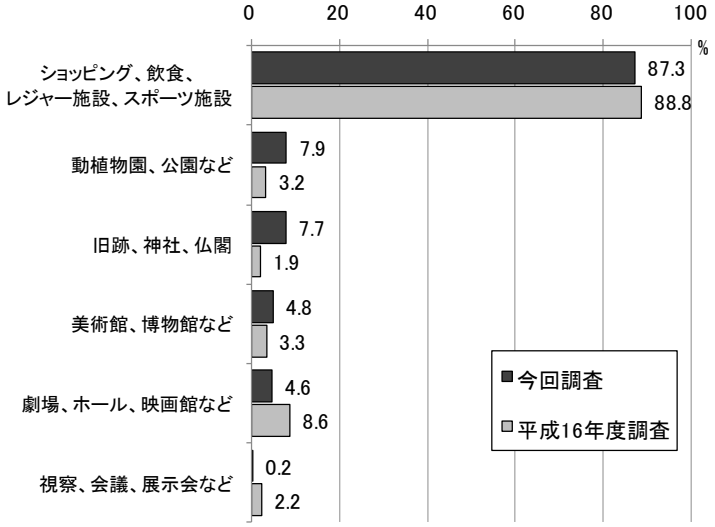
立ち寄り状況をみると、「市内のみ」が 71.1%、「市外のみ」が 22.1%を占めている。前回調査と比べて、「市内のみ」、「市外のみ」が増加し、「市内・市外両方」が減少している。

図表２－７　市内・市外の立ち寄り状況（前回調査との比較）



市内での立ち寄り施設は、「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」の割合が 87.3%と最も高い。前回調査と同様、圧倒的に高い割合を占めているものの、「動植物園、公園など」や「旧跡、神社、仏閣」の割合が増えており、立ち寄り先の多様化が徐々に進んでいる傾向も一部にみられる。

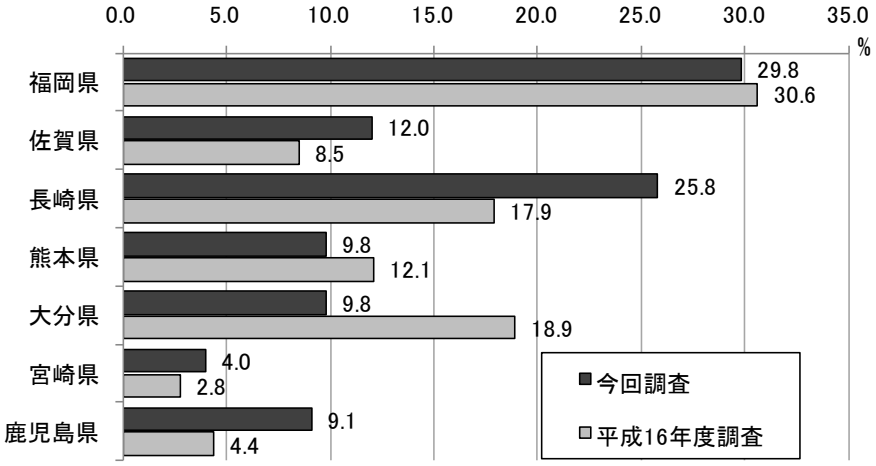
図表２－８　市内での立ち寄り施設（複数回答）



注）その他の目的を除外した割合

本市以外の九州での立ち寄り先を県別でみると、前回調査と比較して特に「長崎県」と「鹿児島県」が増えている。

図表２－９　本市以外の九州での立ち寄り先（前回調査との比較）



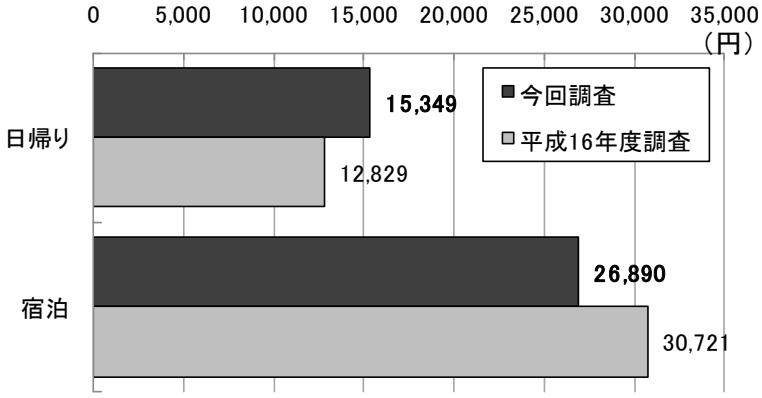
（注）沖縄県は回答なし

２－５　観光消費額

１人当たりの観光消費額は、「日帰り」では増加、「宿泊」では減少。

市内での１人当たりの観光消費額は、「日帰り」が 15,349 円、「宿泊」が 26,890 円（宿泊費込み）となっている。前回調査と比較すると、日帰り客が約 2,500 円増加したのに対し、宿泊客は約 3,800 円減少している。

図表２－１０　１人当たりの観光消費額（日帰り・宿泊別）（前回調査との比較）

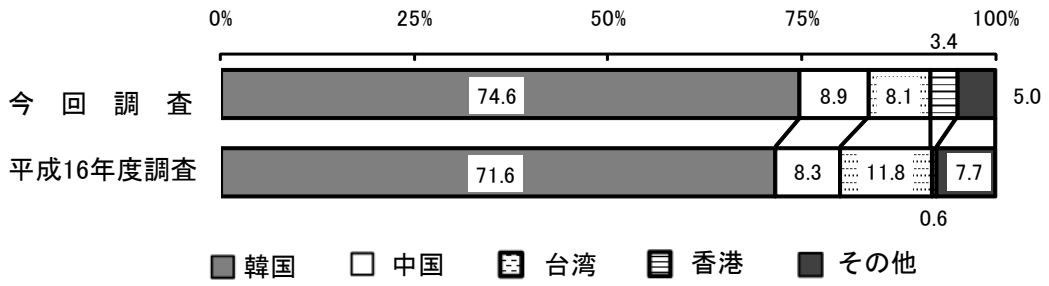


２－６　外国人観光客

「韓国」が７割以上、「中国」が増えて第２位へ。

外国人観光客の居住国・地域をみると、「韓国」が７割以上と最も高く、次いで「中国」(8.9%)、「台湾」(8.1%)の順になっている。前回調査では第１位の「韓国」に次ぐのは「台湾」であったが、今回の調査では「中国」が第２位になっている。

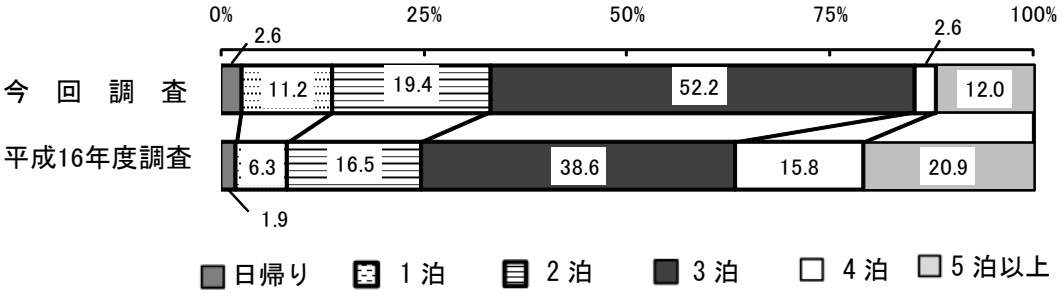
図表２－１１　外国人観光客の居住国・地域（前回調査との比較）



旅行日数は「３泊」が増加、「４泊」以上は減少

旅行日数は「３泊」の割合が最も高く、大きく増加しているが、「４泊」以上は減少している。交通利便性の向上などにより旅行日数が短くなっていると思われる。

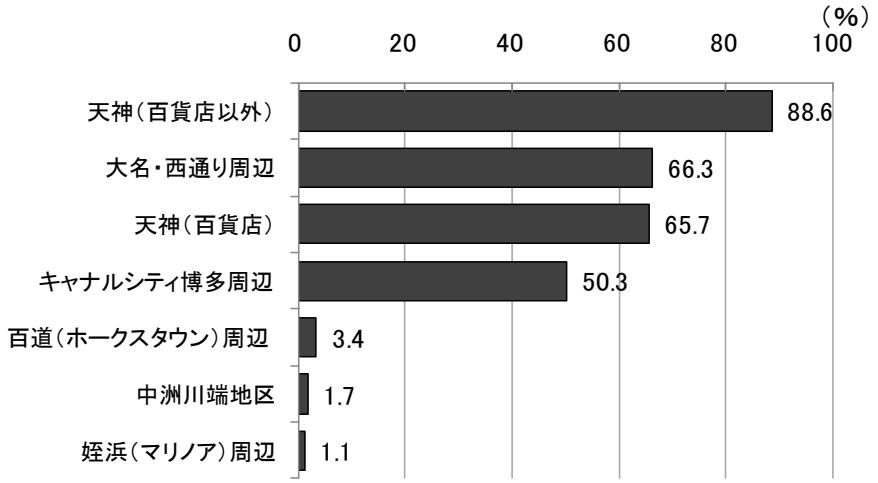
図表２－１２　旅行日数（前回調査との比較）



市内では、天神周辺地区に立ち寄る割合が高い。

市内での立ち寄りエリアは、「天神（百貨店以外）」（88.6％）が最も高く、次いで「大名・西通り周辺」（66.3％）、「天神（百貨店）」（65.7％）などの天神周辺地区と「キャナルシティ博多周辺」（50.3％）が高い。

図表２－１３　市内での立ち寄りエリア（複数回答）



※天神（百貨店）=天神岩田屋、博多大丸、福岡三越
天神（百貨店以外）=天神地下街、福岡パルコ、天神コア・ビブレ、ソラリアプラザ、イムズほか

第3章　調査結果の分析

第３章　調査結果の分析

本章では、観光客の動向を「国内観光客」「外国人観光客」に分けて分析する。

３－１　国内観光客

ここでは、国内観光客の動向を分析し、その特徴を明らかにする。

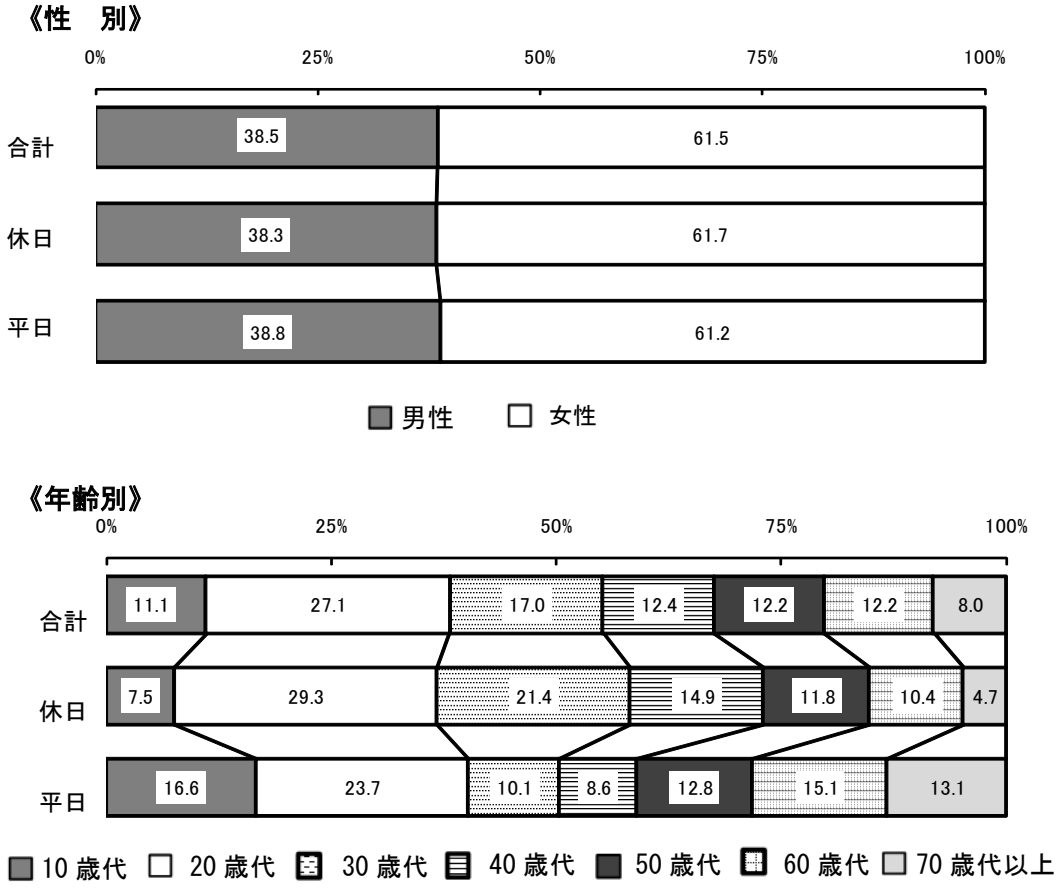
３－１－１　性別・年齢別構成

性別では「女性」、年齢別では「20 歳代」が最も高く、次いで「60 歳代」以上が高い。休日では「20 歳代」から「40 歳代」までが、平日では「10 歳代」と「60 歳代」以上が高くなっている。

性別では、「女性」（61.5%）が「男性」（38.5%）を上回っており、休日、平日とも同様の傾向がみられる。

年齢別では、「20 歳代」の割合が最も高い。また、休日と平日を比べると、休日では「20 歳代」から「40 歳代」までが、平日では「10 歳代」と「60 歳代」以上がそれぞれ高くなっている。

図表３－１　休日・平日別の性別・年齢別構成

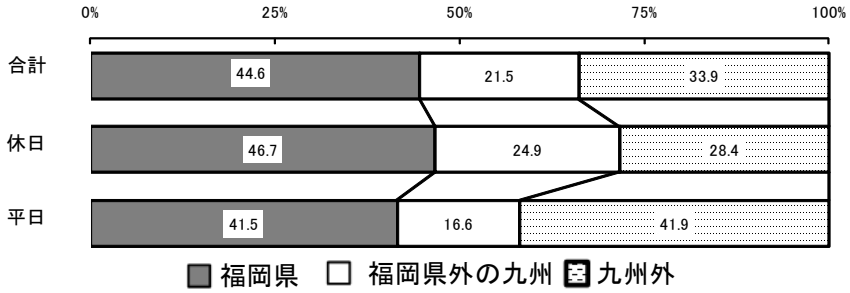


３－１－２　居住地域

休日は「福岡県外の九州」、平日は「九州外」が高い。

休日・平日別に居住地域をみると、休日は「福岡県外の九州」が、平日は「九州外」の割合がそれぞれの平日、休日と比べて高い。

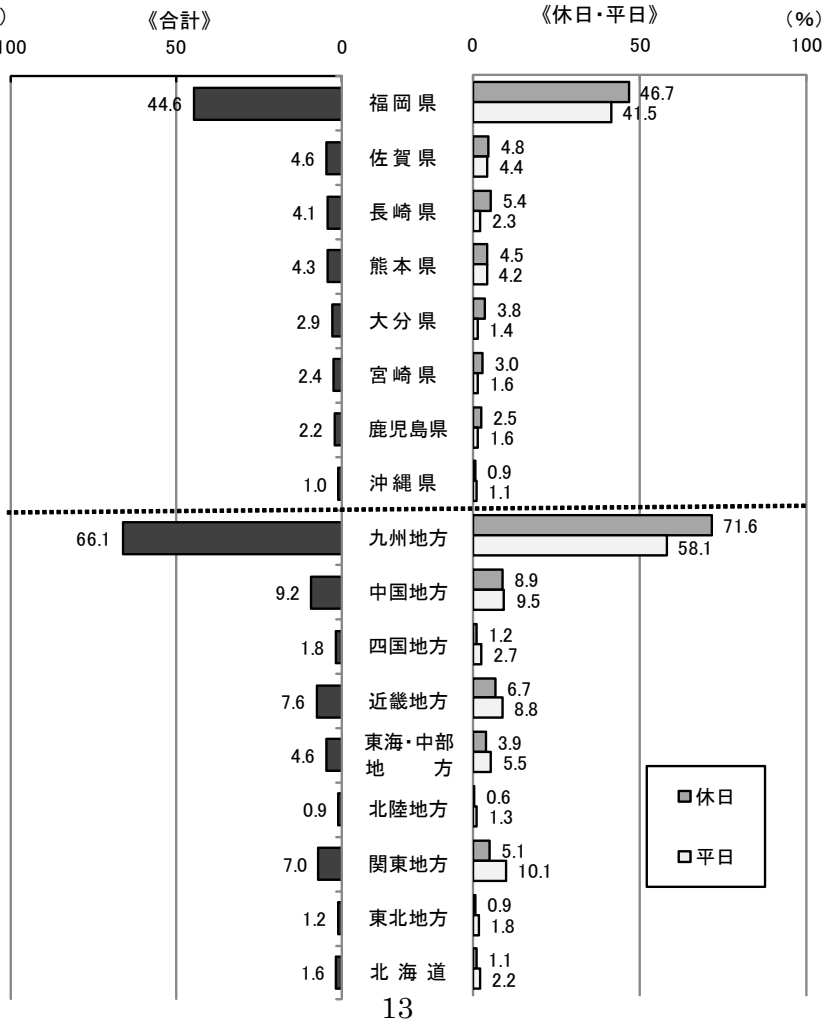
図表３－２　休日・平日別の居住地域



「福岡県外の九州」を県別にみると、「佐賀県」4.6%（休日 4.8%、平日 4.4%）、「熊本県」4.3%（休日 4.5%、平日 4.2%）となっており、福岡県を含む九州全体で 66.1%（休日 71.6%、平日 58.1%）となっている。

九州外からは、「中国地方」が 9.2%（休日 8.9%、平日 9.5%）、「近畿地方」が 7.6%（休日 6.7%、平日 8.8%）、「関東地方」が 7.0%（休日 5.1%、平日 10.1%）で、他の地方と比べてやや高い。

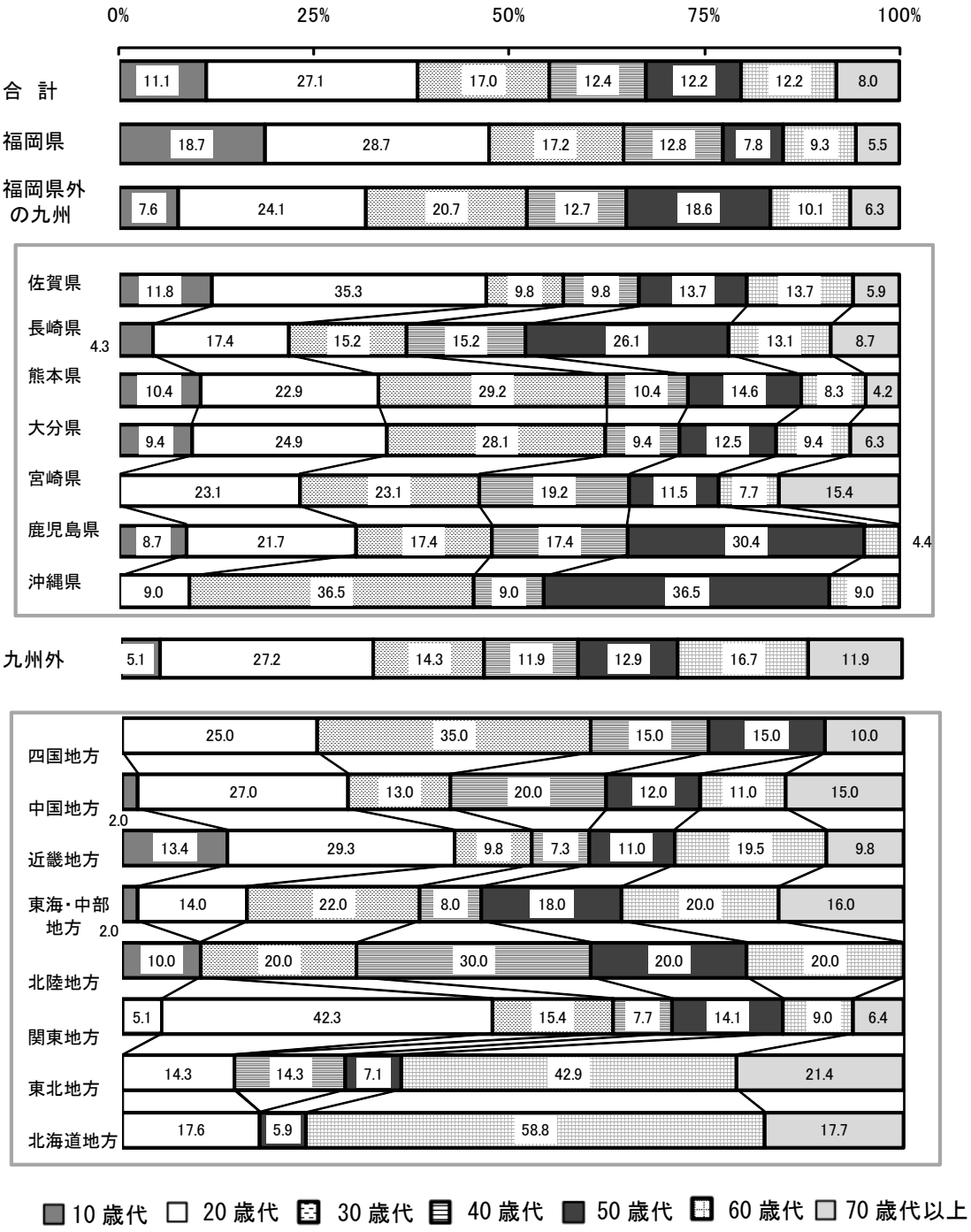
図表３－３　休日・平日別の居住地域詳細



次に、居住地域別に年齢層をみると、「福岡県」「福岡県外の九州」「九州外」いずれも「20 歳代」が高く、「九州外」は「60 歳代」以上が相対的に高くなっている。

また、「福岡県外の九州」では「熊本県」、「大分県」、「沖縄県」は「30 歳代」が、「長崎県」、「鹿児島県」、「沖縄県」は「50 歳代」が高い（沖縄県は同率）。居住地域別に「60 歳代」以上をみると、「福岡県」が 14.8%、「福岡県外の九州」が 16.4%、「九州外」が 28.6%で、遠方からの割合が高い。

図表３－４　居住地域別の年齢構成



前回調査と比較すると、九州全体の占める割合が休日・平日とも減り、「九州外」が増えている。「九州外」でみると、休日より平日の割合が高い。

図表３－５　休日・平日別の居住地詳細（上位３位）（前回調査との比較）

(%)

			《休日》		《平日》	
九州	今回調査		九州全体（福岡県外の九州）	71.6 (24.9)	九州全体（福岡県外の九州）	58.1 (16.6)
		第1位	福岡県	46.7	福岡県	41.5
		第2位	長崎県	5.4	佐賀県	4.4
		第3位	佐賀県	4.8	熊本県	4.2
	平成16年度調査		九州全体（福岡県外の九州）	72.3 (30.3)	九州全体（福岡県外の九州）	70.4 (25.7)
		第1位	福岡県	42.0	福岡県	44.7
		第2位	長崎県	7.8	佐賀県	6.2
		第3位	佐賀県	6.0	熊本県	5.9
九州外	今回調査	第1位	中国地方	8.9	関東地方	10.1
		第2位	近畿地方	6.7	中国地方	9.5
		第3位	関東地方	5.1	近畿地方	8.8
	平成16年度調査	第1位	関東地方	7.9	関東地方	8.8
		第2位	中国地方	5.9	中国地方	6.3
		第3位	近畿地方	5.0	近畿地方	5.9

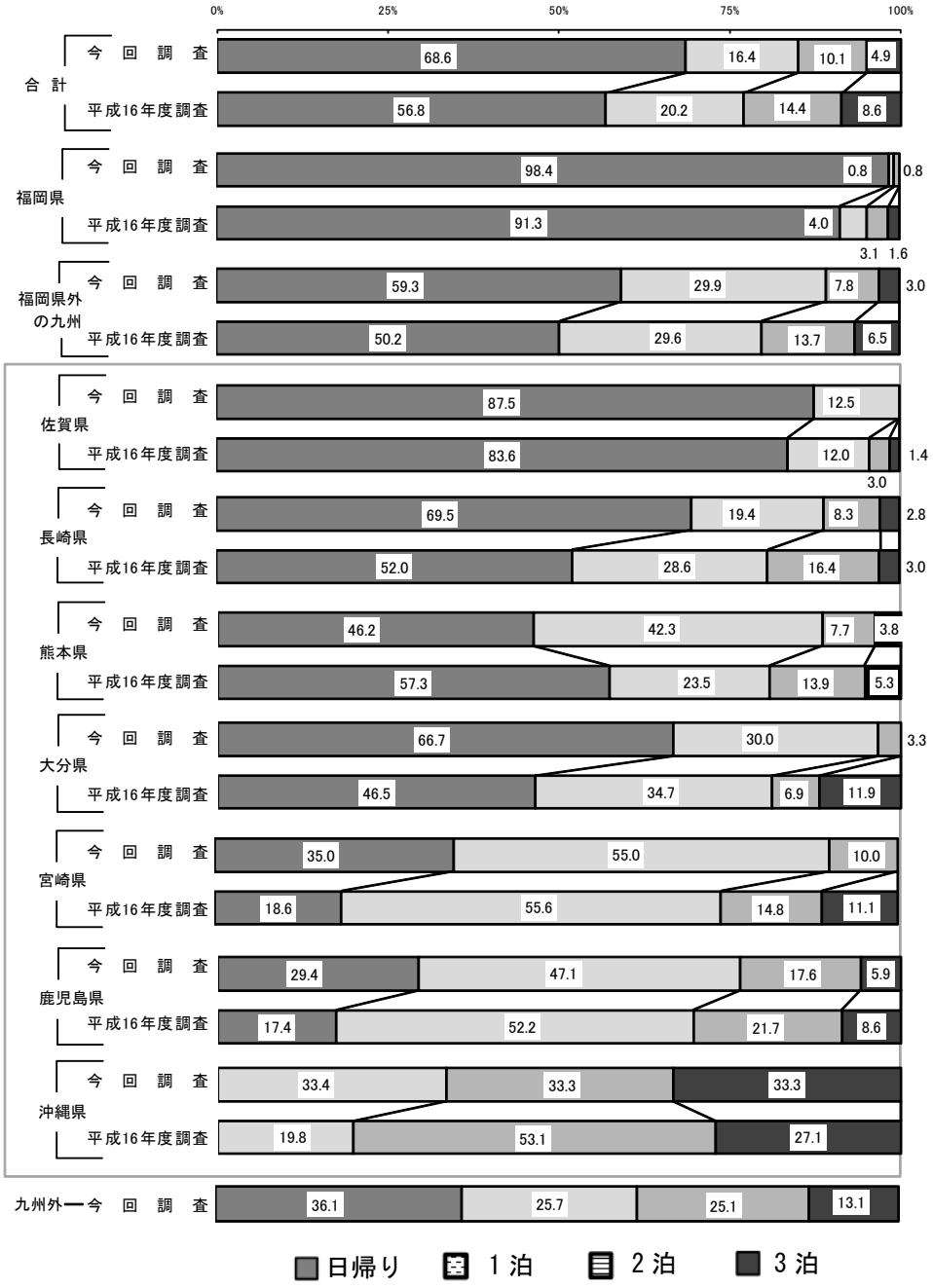
３－１－３　旅行日数

九州の北部エリアの「日帰り」の割合が高い。

旅行日数を居住地域別にみると、九州北部エリア（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県）の「日帰り」の割合が高い。

前回調査と比較すると、全体的に「日帰り」が増え、特に「長崎県」、「大分県」、「宮崎県」、「鹿児島県」の「日帰り」が増加している。

図表３－６　居住地域詳細別の旅行日数（休日）（前回調査との比較）



※「九州外」のデータは、平成 16 年度調査では未集計のため、今回調査のみを掲示。

性別でみると、「日帰り」では｢女性｣の割合が高く、「宿泊」では「男性」の方が高くなっている。

年齢別では、「10 歳代」は「日帰り」の割合が高く、年齢が上がるほど「宿泊」の割合が高くなる傾向にある。

図表３－７　性別・年齢別にみた旅行日数

（%）

		日帰り	宿泊	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊以上
合　計		63.3	36.7	14.8	13.9	4.3	1.8	1.9
性別	男性	58.7	41.3	18.3	14.4	3.9	2.1	2.6
	女性	66.3	33.6	12.3	13.4	4.9	1.6	1.4
年齢別	10歳代	82.1	17.9	4.5	7.1	3.6	－	2.7
	20歳代	63.6	36.4	15.8	15.1	2.9	1.1	1.5
	30歳代	61.2	38.9	20.6	11.8	3.5	0.6	2.4
	40歳代	65.6	34.4	15.2	11.2	6.4	0.8	0.8
	50歳代	61.8	38.2	19.5	12.2	4.1	0.8	1.6
	60歳代	54.6	45.4	13.0	14.6	8.9	6.5	2.4
	70歳代以上	50.6	49.4	6.2	28.4	6.2	4.9	3.7

九州各県の主要都市から他都市への時間距離は、高速交通網の整備などによって、着実に近くなってきており、今後、予定される九州新幹線鹿児島ルートの全線開通及び西九州（長崎）ルートの整備と合わせて、「九州１日観光圏」の拡大が見込まれる。九州新幹線の全線開通は、九州域内の移動形態に大きな変化をもたらすのではないかと予想される。

参考資料　交通機関・幹線道路の整備状況

【新幹線】

プロジェクト名	区間・所在地	内　容
九州新幹線 鹿児島ルート 西九州（長崎）ルート	 博多～鹿児島 博多～長崎	 平成 23 年 3 月全線開通予定 武雄温泉～諫早　平成 20 年 3 月認可

【高規格幹線道路】

プロジェクト名		区間・所在地	内　容
高速自動車国道	九州縦貫自動車道鹿児島線・宮崎線	北九州～福岡～鳥栖～熊本～えびの～鹿児島・宮崎	総延長４２８ｋｍ ・全線開通
	九州横断自動車道長崎大分線	長崎～佐賀～鳥栖～甘木～大分	総延長２５７ｋｍ ・全線開通
	東九州自動車道	北九州～行橋～大分～延岡～宮崎～日南～鹿屋～加治木	総延長４３６ｋｍ ・開通区間(195km) 北九州 JCT～苅田北九州空港(8km)、 豊津～椎田(10km)※、宇佐～速見(27km)※、 大分米良～佐伯(40km)、 延岡 JCT～門川(12km)※、 門川～日向(14km)、高鍋～清武 JCT(39km)、 曽於弥五郎～隼人東(38km)、 隼人東～加治木 JCT(7km)※
	九州横断自動車道延岡線	御船～矢部～延岡	総延長９５ｋｍ ・開通区間(8km) 北方～延岡 JCT(8km)
一般国道自動車専用道路	西九州自動車道	福岡～伊万里～佐世保～武雄	総延長１５０ｋｍ ・開通区間(79km) 福岡高速５号線一部区間(13km)※、 福岡前原道路(15km)、二丈浜玉道路(5km)※、 唐津道路(11km)、 佐々佐世保道路の一部区間(5km)、 佐世保道路(8km)、武雄佐世保道路(22km)
	南九州西回り自動車道	八代～水俣～川内～鹿児島	総延長１４０ｋｍ ・開通区間(65km) 八代日奈久道路(12km)、 日奈久芦北道路(17km)、 川内道路(14km)、鹿児島道路(22km)

※高速自動車国道の開通区間には、一般国道自動車専用道路が含まれる。
※一般国道自動車専用道路（西九州自動車道）の開通区間には一般国道のバイパス等を活用する区間が含まれる。

３－１－４　旅行グループ

旅行グループでは「家族」、旅行人数では「２人」が最も高い。

旅行グループは「家族」が 40.6％と最も高く、次いで「友人」（37.4％）となっている。休日・平日別にみると、休日は「家族」が 45.5％と高く、平日は「友人」が 42.1％と高い。

旅行人数では、全体的に「２人」が 44.7％と最も高い。次いで「３人」（17.0％）、「５人以上」（14.6％）となっている。平日は「２人」が 47.8％と高くなっている。

図表３－８　休日・平日別の旅行グループ、旅行人数

《旅行グループ》

（％）

	自分ひとり	家族	友人	職場・学校等の団体	その他
合　計	11.8	40.6	37.4	5.4	4.8
休　日	9.9	45.5	34.5	5.1	5.0
平　日	14.6	33.0	42.1	5.8	4.5

《旅行人数》

（％）

	１人	2人	3人	4人	5人以上
合　計	11.4	44.7	17.0	12.3	14.6
休　日	9.6	42.6	17.4	15.4	15.0
平　日	14.1	47.8	16.1	7.4	14.6

旅行グループを性別・年齢別にみると、性別では、男性、女性ともに「家族」が高い。

年齢別では、「10 歳代」と「20 歳代」は「友人」が多く、「30 歳代」以上は「家族」が高くなっている。

図表３－９　性別・年齢別の旅行グループ

（％）

	自分ひとり	家族	友人	職場・学校等の団体	その他
男性	13.0	39.6	33.2	7.1	7.1
女性	11.1	40.8	40.1	4.5	3.5
10歳代	12.1	12.1	70.7	3.1	2.0
20歳代	13.8	21.2	56.5	2.7	5.8
30歳代	8.9	50.9	30.2	4.7	5.3
40歳代	7.7	65.5	19.3	5.0	2.5
50歳代	16.3	52.1	22.2	5.1	4.3
60歳代	13.6	48.3	23.7	9.3	5.1
70歳代以上	7.9	51.3	19.7	13.2	7.9

３－１－５　来訪回数

本市と近い居住地域ほど「４回目以上」が高くなる。

来訪回数を居住地域別にみると、居住地域が本市に近いほど「４回目以上」が高くなっている。リピーター（来訪回数２回目以上）の割合は、65.2%である。リピーターの割合を居住地域別にみると、「福岡県」が 98.9%、「福岡県外の九州」が 96.2%、「九州外」が 54.1%である。

図表３－１０　居住地域別の来訪回数

（%）

	初めて	２回目	３回目	４回目以上	リピーターの割合（2回目以上）
合　計	34.8	8.9	3.5	52.8	65.2
福岡県	1.1	2.8	0.6	95.5	98.9
福岡外の九州	3.8	7.5	11.3	77.4	96.2
九州外	45.9	12.5	9.7	31.9	54.1

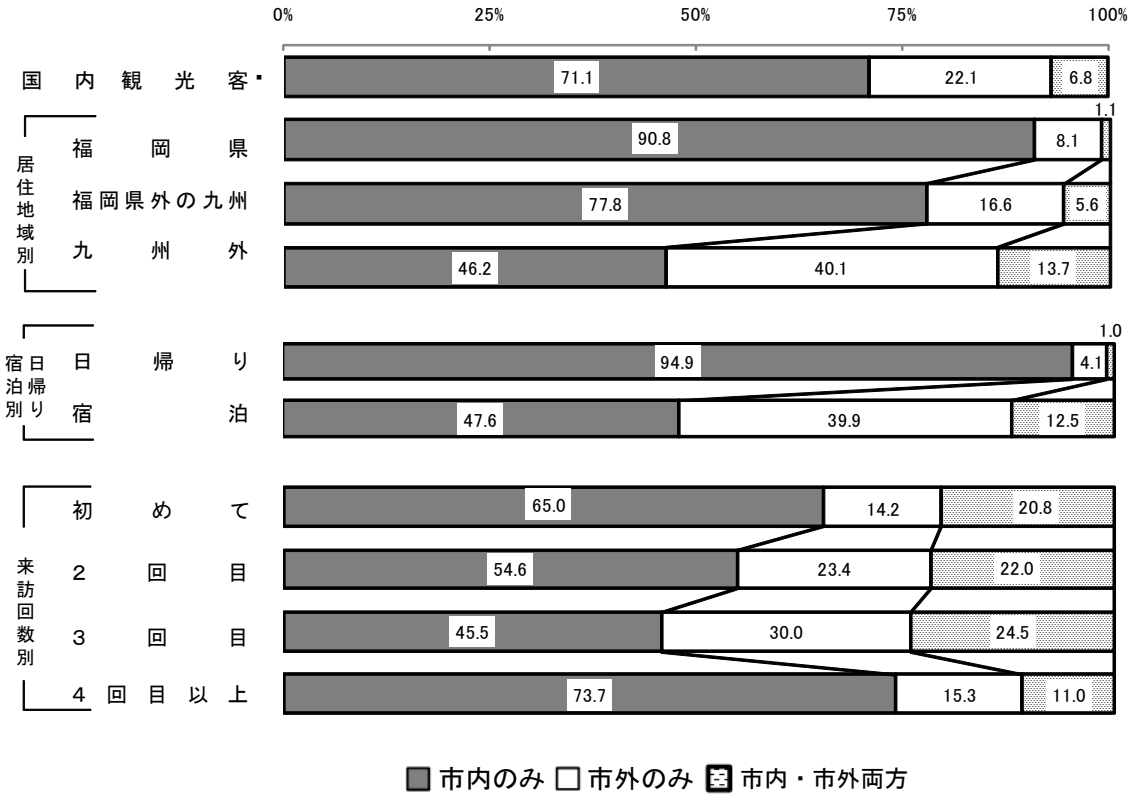
３－１－６　立ち寄り状況

（１）立ち寄り状況（市内・市外）

「市内のみ」は６割を超えるが、居住地域が遠方になるほど市外にも立ち寄る割合が高い。

「市内のみ」は 71.1％で高い割合を占めるが、居住地域が遠方になるほど市外にも立ち寄る割合が高く、九州外が 53.8％（うち、「市内・市外両方」は 13.7％）、「宿泊」が 52.4％（うち、「市内･市外両方」は 12.5％）となっている。来訪回数で見ると、「初めて」の来訪の場合は「市内のみ」が 65.0％と高い。「２回目」、「３回目」となるにつれて「市外のみ」が高くなっているが、「４回目以上」は「市内のみ」が高くなっている。

図表３－１１　居住地域別、日帰り・宿泊別、来訪回数別の立ち寄り状況（市内・市外）



（２）市内での立ち寄り施設

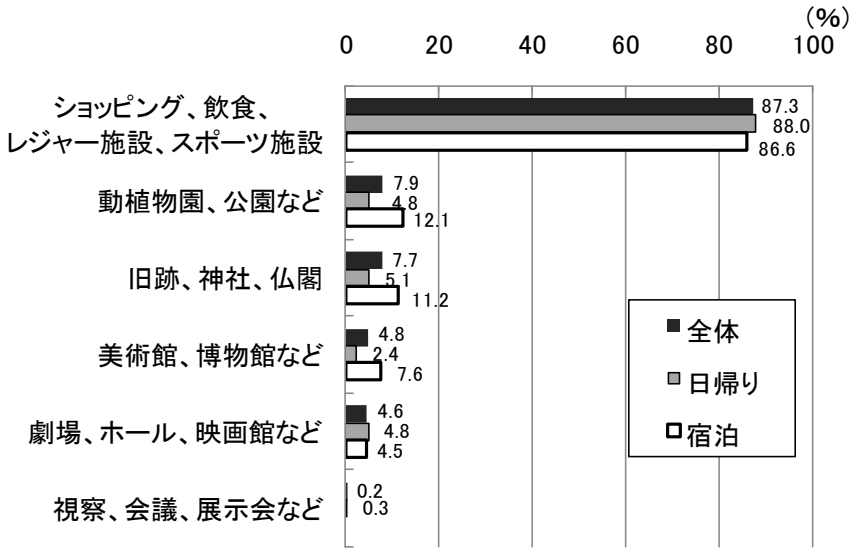
「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」が 87.3%と最も高い。

①立ち寄り施設の特徴

本市では、「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」に立ち寄る割合が 87.3%と最も高く、次いで「動植物園、公園など」が 7.9%、「旧跡、神社、仏閣」が 7.7%、「美術館、博物館など」が 4.8%、「劇場、ホール、映画館など」が 4.6%となっている。

日帰りと宿泊別にみると、宿泊客は「動植物園、公園など」、「旧跡、神社、仏閣」、「美術館、博物館など」に立ち寄る割合が日帰り客と比べて高い。

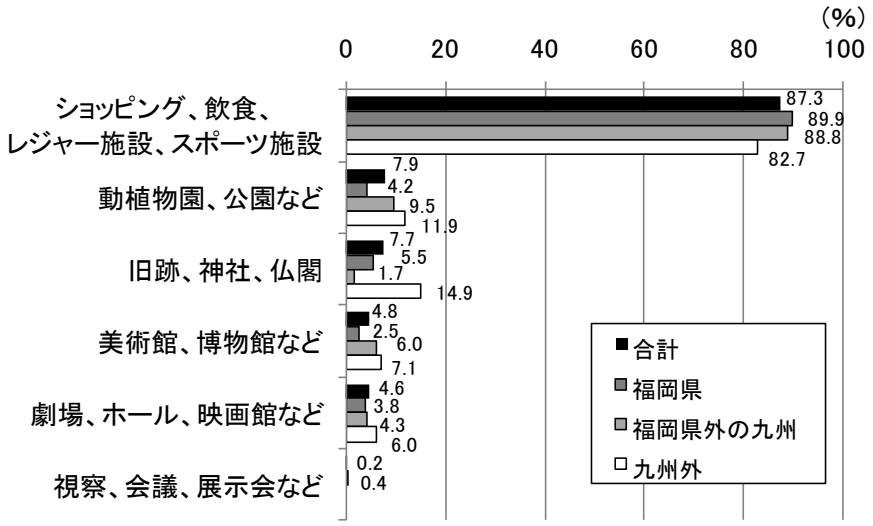
図表３－１２　日帰り・宿泊別の本市での立ち寄り施設（複数回答）



※立ち寄り施設が不明のものは除外して割合を算出。

居住地域別でみると、本市に近い地域ほど「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」に立ち寄る割合が高く、「九州外」では、「旧跡、神社、仏閣」（14.9%）、「動植物園、公園など」（11.9%）「美術館、博物館など」（7.1%）、「劇場、ホール、映画館など」（6.0%）など、「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」以外に立ち寄る割合が高くなっている。

図表３－１３　居住地域別の本市での立ち寄り施設（複数回答）



具体的な立ち寄り場所をみると、天神周辺地区の人気が高く、なかでも「百貨店以外」（59.0%）に立ち寄る割合が高くなっている。次いで「キャナルシティ博多周辺」（18.1%）、「大名・西通り周辺」（17.5%）となっている。

天神周辺地区では大型商業施設の集積が進み、また交通アクセスの利便性の向上により、商業都市としての魅力を一段と増しており、九州の各都市から多くの観光客が立ち寄る実態が見てとれる。

図表３－１４　市内での具体的な立ち寄り場所（複数回答）

（%）

施設		主な立ち寄り場所	
ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設	87.3	天神（百貨店以外）	59.0
		キャナルシティ博多周辺	18.1
		大名・西通り周辺	17.5
		天神（百貨店）	12.7
		姪浜（マリノア）周辺	6.4
		百道（ ホークスタウン）周辺	5.0
		中洲川端地区	4.0
		ベイサイドプレイス博多	0.8
		マリゾン	0.2
		西鉄マリエラ	0.2
動植物園、公園など	7.9	福岡タワー	2.9
		能古島アイランドパーク	2.5
		海の中道海浜公園	2.3
		シーサイドももち	1.5
		楽水園	1.3
		マリンワールド海の中道	1.2
		大濠公園内日本庭園	0.8
		志賀島	0.8
		福岡市動植物園	0.4
		今宿野外活動センター	0.2
旧跡、神社、仏閣	7.7	櫛田神社	3.7
		鴻臚館跡・福岡城跡	1.7
		住吉神社	0.8
		聖福寺	0.8
		承天寺	0.4
		崇福寺	0.4
		福岡県護国神社	0.2
		愛宕神社	0.2
		筥崎宮	0.2
美術館、博物館など	4.8	博多町家ふるさと館	1.2
		櫛田神社博多歴史館	1.0
		福岡市博物館	1.0
		福岡県立美術館	0.8
		福岡市美術館	0.8
		福岡市文学館	0.4
劇場、ホール、映画館など	4.6	博多座	2.9
		マリンメッセ福岡	1.3
		福岡国際センター	0.6
		福岡サンパレス（コンサート等）	0.2
視察、会議、展示会など	0.2	福岡国際会議場	0.2

②「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」の特徴

居住地域別に「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」を目的に立ち寄るエリアをみると、全ての地域において「天神（百貨店以外）」の割合が最も高くなっている。「天神（百貨店以外）」を除く立ち寄りエリアを居住地域別でみると、福岡県、佐賀県からの観光客は「大名・西通り周辺」に立ち寄る割合が高く、長崎県、大分県は「天神（百貨店）」、熊本県、宮崎県、沖縄県は「キャナルシティ博多周辺」、鹿児島県は「大名・西通り周辺」と「キャナルシティ博多周辺」などに立ち寄る割合がそれぞれ高くなっている。

九州外からの地域では、「天神（百貨店以外）」が最も高いが、「キャナルシティ博多周辺」も他の地域と比べて高くなっている。

図表３－１５　居住地域別にみた「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」での立ち寄りエリア（複数回答）

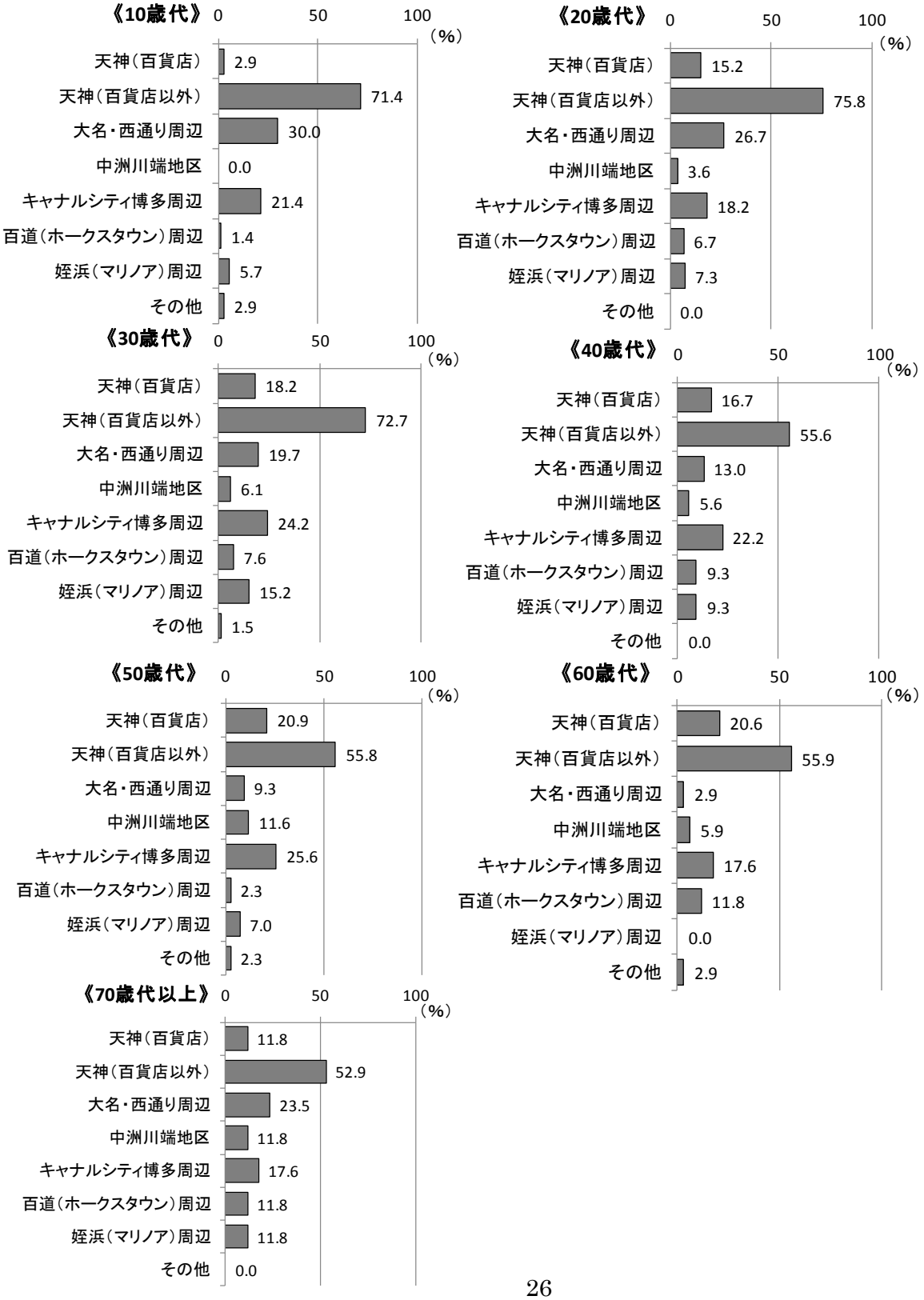
（%）

		天神（百貨店）	天神（百貨店以外）	大名・西通り周辺	中洲川端地区	キャナルシティ博多周辺	百道（ホークスタウン）周辺	姪浜（マリノア）周辺	その他
合　計		14.7	68.0	20.9	4.9	20.7	6.4	8.0	1.1
居住地域	福岡県	9.0	72.4	23.3	2.4	13.8	4.3	7.6	0.5
	福岡県外の九州	19.0	71.0	19.0	3.0	19.0	5.0	9.0	1.0
	九州外	20.0	59.3	18.6	10.0	32.1	10.7	7.9	2.1
居住地詳細	佐賀県	8.0	60.0	36.0	4.0	8.0	4.0	4.0	－
	長崎県	42.1	63.2	10.5	－	21.1	5.3	5.3	－
	熊本県	5.0	75.0	10.0	－	20.0	10.0	20.0	－
	大分県	23.1	76.9	7.7	7.7	－	－	7.7	－
	宮崎県	33.3	77.8	22.2	－	55.6	－	11.1	－
	鹿児島県	11.1	88.9	22.2	11.1	22.2	－	11.1	－
	沖縄県	20.0	80.0	20.0	－	40.0	20.0	－	－
	中国地方	18.2	57.6	15.2	6.1	33.3	15.2	3.0	－
	近畿地方	23.3	60.0	13.3	16.7	33.3	13.3	10.0	3.3
	関東地方	20.0	60.0	24.0	12.0	24.0	10.0	12.0	2.0

※天神（百貨店）=天神岩田屋、博多大丸、福岡三越
天神（百貨店以外）=天神地下街、福岡パルコ、天神コア・ビブレ、ソラリアプラザ、イムズほか

年齢別にみると、全ての年齢層において「天神（百貨店以外）」の割合が最も高い。次いで、「10 歳代」「20 歳代」及び「70 歳代以上」は、「大名・西通り周辺」が高い。「30 歳代」から「50 歳代」までは「キャナルシティ博多周辺」が、「60 歳代」は「天神（百貨店）」が他の年齢層と比べて高くなっている。

図表３－１６　年齢別にみた「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」での立ち寄りエリア（複数回答）



性別では、「女性」の割合が「天神（百貨店以外）」で特に高く、「大名・西通り周辺」と「百道（ホークスタウン）周辺」では「男性」が高くなっている。

来訪回数別では、来訪回数の多少に関係なく、「天神（百貨店以外）」の割合が高い。次いで、「２回目」、「３回目」の区分で「キャナルシティ博多周辺」が高く、「初めて」、「４回目以上」の区分で「大名・西通り周辺」が高くなっている。

図表３－１７　性別、来訪回数別にみた「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」での立ち寄りエリア（複数回答）

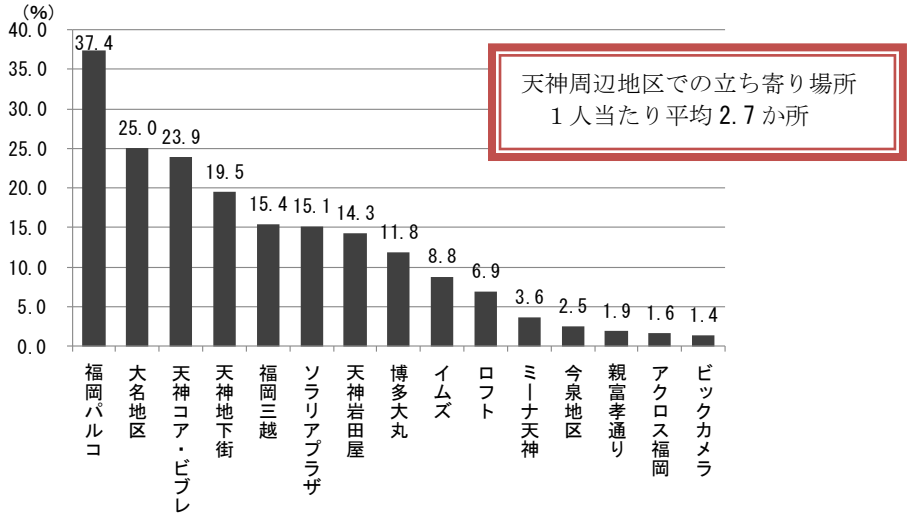
（%）

		天神（百貨店）	天神（百貨店以外）	大名・西通り周辺	中洲川端地区	キャナルシティ博多周辺	百道（ホークスタウン）周辺	姪浜（マリノア）周辺	その他
合　計		14.7	68.0	20.9	4.9	20.7	6.4	8.0	1.1
性別	男性	10.7	61.3	27.4	4.8	21.4	10.7	7.7	－
	女性	16.7	71.7	17.4	5.1	19.9	4.0	8.3	1.8
来訪回数	初めて	12.0	76.1	13.7	1.7	6.0	8.5	12.0	0.9
	2回目	19.5	59.7	18.2	6.5	50.6	5.2	9.1	2.6
	3回目	20.6	58.8	20.6	7.4	26.5	14.7	10.3	2.9
	4回目以上	10.7	70.6	26.0	5.1	16.4	2.8	4.5	－

③天神周辺地区での立ち寄り場所

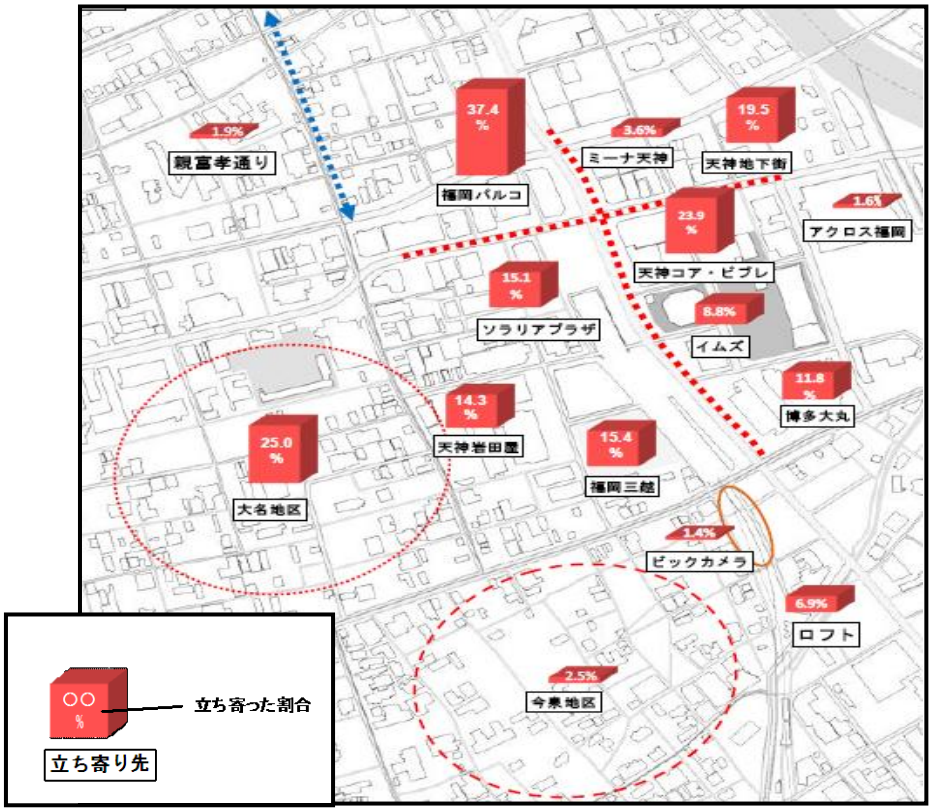
今回、国内観光客の７割以上が立ち寄る、天神周辺地区の具体的な立ち寄り場所について調査したところ、「福岡パルコ」(注) が 37.4%で最も高く、次いで、「大名地区」（25.0%）、「天神コア・ビブレ」（23.9%）、「天神地下街」（19.5%）の順となっている。天神周辺地区での１人当たり平均立ち寄り場所数は 2.7 か所である。

図表３－１８　天神周辺地区での主な立ち寄り場所（複数回答）



（注）調査を実施した３月 18 日・22 日は、「福岡パルコ」のプレオープン及び開業直後となっている。

図表３－１９　天神周辺地区での立ち寄り場所マップ



④「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」以外の立ち寄り場所

「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」以外で上位に挙げられた立ち寄り場所の年齢別の特徴をみると、「櫛田神社」は年齢層が幅広いが、特に「20 歳代」が高く、「博多座」は「50 歳代」が、「能古島アイランドパーク」は「20 歳代」、「30 歳代」が、「海の中道海浜公園」は「20 歳代」が、「鴻臚館跡・福岡城跡」は「60 歳代」の割合がそれぞれ高い。

図表３－２０　市内の主な立ち寄り場所別の「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」以外の年齢構成（複数回答）

（%）

年齢別 主な立ち寄り場所	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	※全体に対する割合
櫛田神社	－	31.6	15.8	5.3	21.1	21.1	5.3	3.7%
福岡タワー	－	26.7	26.7	26.7	20.0	－	－	2.9%
博多座	－	20.0	20.0	13.3	40.0	－	6.7	2.9%
能古島アイランドパーク	－	38.5	38.5	15.4	7.7	－	－	2.5%
海の中道海浜公園	－	41.7	16.7	8.3	16.7	8.3	8.3	2.3%
鴻臚館跡・福岡城跡	－	33.3	11.1	－	11.1	44.4	－	1.7%
シーサイドももち	－	12.5	12.5	37.5	12.5	12.5	12.5	1.5%
マリンメッセ福岡	－	14.3	14.3	28.6	－	14.3	28.6	1.3%
マリンワールド海の中道	16.7	33.3	－	－	33.3	16.7	－	1.2%
博多町家ふるさと館	16.7	50.0	－	－	33.3	－	－	1.2%
福岡国際センター	66.7	33.3	－	－	－	－	－	0.6%

※「全体に対する割合」は p. 24 図表 3-14「市内での具体的な立ち寄り場所」を参照

（３）本市以外での立ち寄り先

本市以外での立ち寄り先は、「福岡県」に次いで「長崎県」の割合が高い。

本市以外での立ち寄り先を県別にみると、「福岡県」が最も高く、次いで「長崎県」、「佐賀県」、「大分県」、「熊本県」の順となっている。

具体的な立ち寄り先では、長崎県の「長崎市内/周辺」が 20.0%、福岡県の「太宰府」が 17.1%、熊本県の「阿蘇」が 9.1%、大分県の「別府」が 7.3%、長崎県の「壱岐・対馬」が 6.9%、鹿児島県の「鹿児島市内/周辺」が 5.5%の順となっている。

九州外の居住者が本市以外に立ち寄る県をみても、「福岡県」の 31.2%に次いで、「長崎県」が 26.6%と高くなっている。

図表３－２１　本市以外での立ち寄り先（複数回答）

（%）

福岡県	29.8	太宰府	17.1
		北九州	4.0
		柳川	2.2
		久留米	1.8
		その他	8.7
佐賀県	12.0	佐賀市内/周辺	12.0
		唐津	1.8
		鳥栖	1.1
長崎県	25.8	長崎市内/周辺	20.0
		壱岐・対馬	6.9
		その他	1.5
熊本県	9.8	阿蘇	9.1
		その他	1.5
大分県	9.8	別府	7.3
		湯布院	1.8
		その他	1.8
宮崎県	4.0	宮崎市内/周辺	4.4
鹿児島県	9.1	鹿児島市内/周辺	5.5
		指宿	0.4
		その他	4.7
九州外	20.7		

九州外の内訳

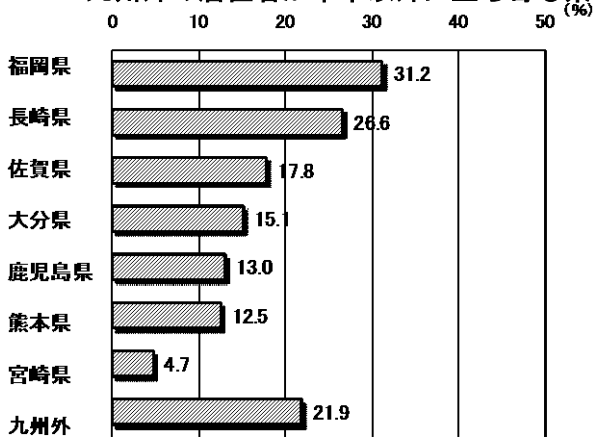
（%）

東京都	3.6
大阪府	3.1
広島県	3.1
山口県	3.1
兵庫県	2.4
愛媛県	1.4
千葉県	1.4
岡山県	1.4
その他	6.0

（注）沖縄県は回答なし

※立ち寄り先が不明のものは除外して割合を算出

図表３－２２　九州外の居住者が本市以外に立ち寄る県（複数回答）

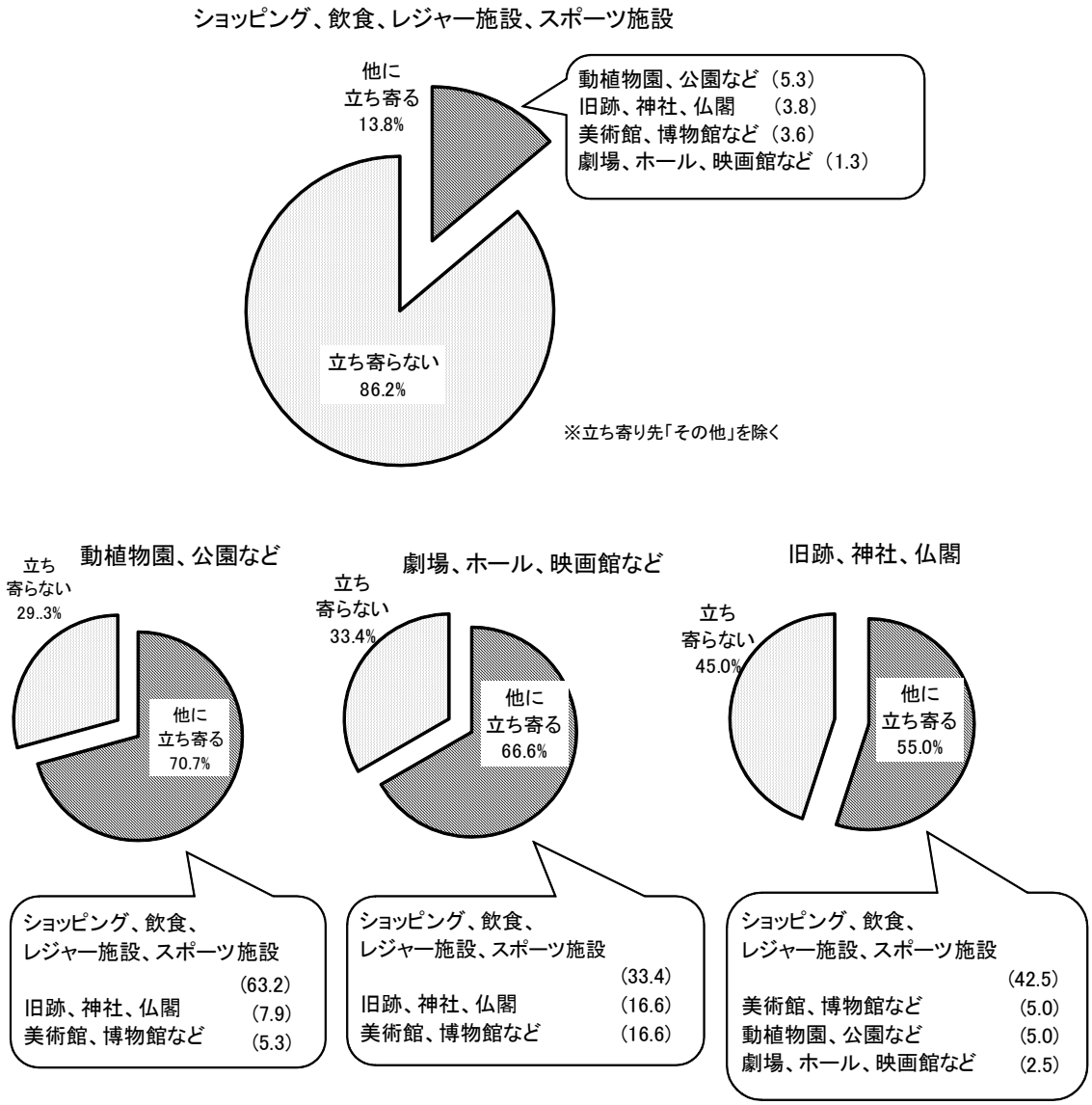


（４）立ち寄り施設相互の結びつき

「動植物園、公園など」、「劇場、ホール、映画館など」及び「旧跡、神社、仏閣」が主な目的の場合は、主目的以外の施設にも立ち寄る割合が高い。

立ち寄り施設相互の結びつきをみると、「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」が主な目的の場合は他の目的地に足を運ぶ割合が 13.8%であるのに対し、「動植物園、公園など」、「劇場、ホール、映画館など」及び「旧跡、神社、仏閣」が主な目的の場合は「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」や他の目的の施設にも立ち寄る割合がそれぞれ 70.7%、66.6%、55.0%と高くなっており、複数の施設を訪れるケースが多いことがわかる。

図表３－２３　立ち寄り施設相互の結びつき（複数回答）



３－１－７　市内での観光形態

（１）移動手段

市内移動手段の利用は「市内バス」、「私鉄・地下鉄」、「JR 在来線」の順に高い。

市内を移動する際の移動手段としては、「市内バス」を利用する割合が 60.5%と最も高く、次いで「私鉄・地下鉄」（56.4%）、「ＪＲ在来線」（30.1%）の順となっている。特に「福岡空港」では「私鉄・地下鉄」、「博多港」では「市内バス」を利用する割合が高い。

図表３－２４　利用交通機関別にみた市内での移動手段（複数回答）

（%）

		市内バス	私鉄・地下鉄	JR在来線	自家用車、社用・公用車	貸切バス・観光バス	タクシー・ハイヤー	レンタカー
合　計		60.5	56.4	30.1	8.3	1.1	1.1	1.1
利用交通機関	JR博多駅	52.9	70.6	11.8	－	－	－	－
	西鉄天神駅	37.3	57.3	24.0	2.7	－	－	－
	地下鉄天神駅	75.8	64.6	47.5	15.2	1.0	1.0	－
	福岡空港	33.3	63.0	14.8	14.8	－	3.7	3.7
	博多港	55.2	－	24.1	3.4	6.9	3.4	6.9

市内での移動手段を居住地域別にみると、福岡県では「市内バス」及び「私鉄・地下鉄」を利用する割合が高い。「福岡県外の九州」では「ＪＲ在来線」、「九州外」では「私鉄・地下鉄」及び「市内バス」が特に高くなっている。

図表３－２５　居住地域別にみた市内での移動手段（複数回答）

（%）

	市内バス	私鉄・地下鉄	JR在来線	自家用車、社用・公用車	貸切バス・観光バス	タクシー・ハイヤー	レンタカー
合　計	60.5	56.4	30.1	8.3	1.1	1.1	1.1
福岡県	64.3	56.5	30.4	8.9	－	1.2	－
福岡県外の九州	47.7	47.7	54.5	11.4	4.5	2.3	4.5
九州外	59.3	63.0	9.3	3.7	1.9	－	1.9

旅行グループ別にみると、「自分ひとり」・「家族」・「友人」では「市内バス」や「私鉄・地下鉄」を利用する割合が高いが、「家族」の「自家用車等」も高い。

図表３－２６　旅行グループ別にみた市内での移動手段（複数回答）

（%）

	市内バス	私鉄・地下鉄	JR在来線	自家用車、社用・公用車	貸切バス・観光バス	タクシー・ハイヤー	レンタカー
合　計	60.5	56.4	30.1	8.3	1.1	1.1	1.1
自分ひとり	56.5	35.3	19.6	8.8	－	2.9	－
家族	54.2	60.9	25.8	28.3	－	－	－
友人	59.8	59.8	17.2	8.0	0.4	0.4	－
職場・学校等の団体旅行	20.7	20.7	11.1	27.6	24.2	－	－
その他	66.7	11.1	－	－	－	－	11.1

年齢別にみると、すべての年齢において「市内バス」、「私鉄・地下鉄」を利用する割合が高いほか、「40 歳代」は「自家用車等」が他と比べて高くなっている。

図表３－２７　年齢別にみた市内での移動手段（複数回答）

（%）

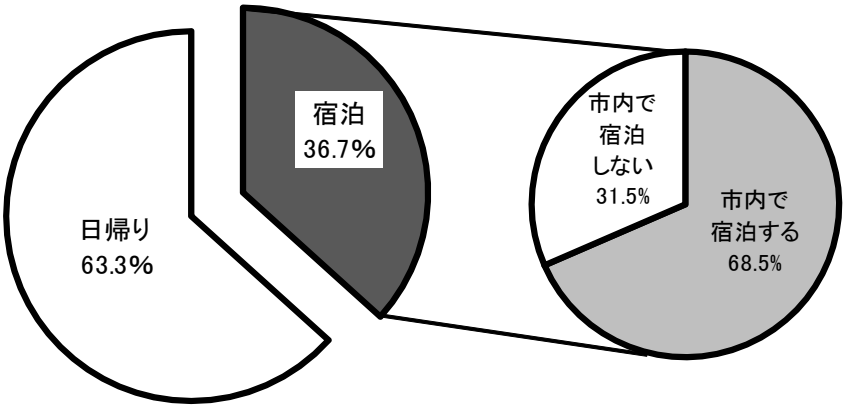
	市内バス	私鉄・地下鉄	JR在来線	自家用車、社用・公用車	貸切バス・観光バス	タクシー・ハイヤー	レンタカー
合　計	60.5	56.4	30.1	8.3	1.1	1.1	1.1
10歳代	66.7	53.6	33.3	1.4	－	－	2.9
20歳代	60.0	51.8	32.7	11.8	－	1.8	0.9
30歳代	46.7	66.7	20.0	3.3	3.3	－	－
40歳代	56.3	50.0	25.0	31.3	－	6.3	－
50歳代	73.7	57.9	21.1	－	10.5	－	－
60歳代	66.7	66.7	38.9	5.6	－	－	－
70歳代以上	14.7	20.6	17.8	17.6	23.5	11.8	－

（２）宿泊状況

全体の約４割が宿泊客。そのうち、市内に宿泊する割合は約７割。

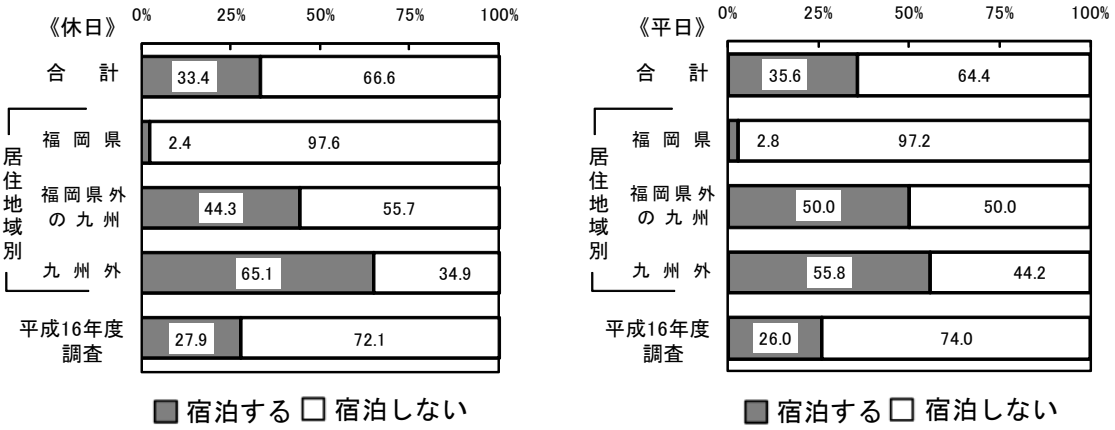
国内観光客の約４割が宿泊客であるが、そのうち68.5%が市内で宿泊する。

図表３－２８　日帰り・宿泊の割合及び市内宿泊の割合



市内での宿泊客を居住地別にみると、「九州外」が最も高く、特に休日（65.1%）が平日（55.8%）より高くなっている。「福岡県外の九州」は平日（50.0%）が休日（44.3%）より高くなっている。合計を前回調査と比較すると、休日・平日ともに「宿泊する」が増加している。

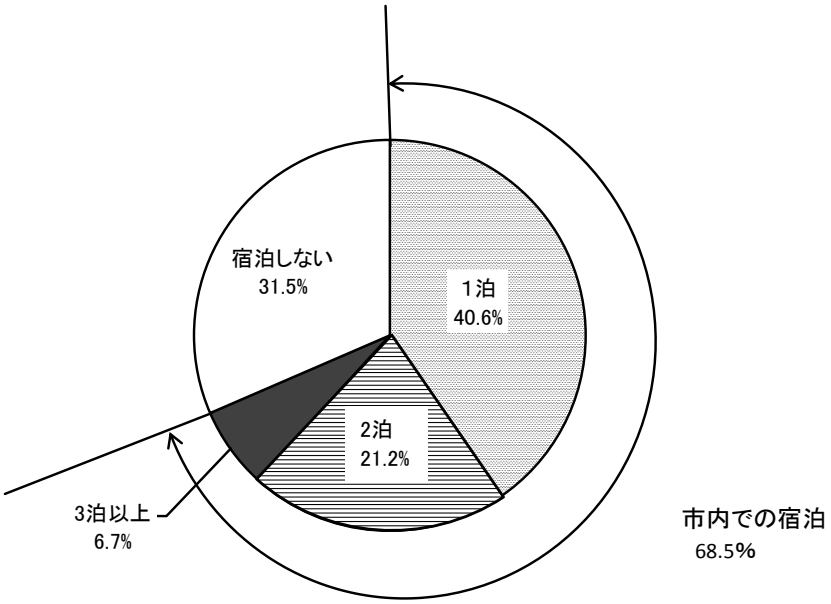
図表３－２９　居住地域別にみた市内での宿泊（前回調査との比較）



市内での宿泊は「１泊」が最も高いが、「２泊」「３泊」も増加傾向。

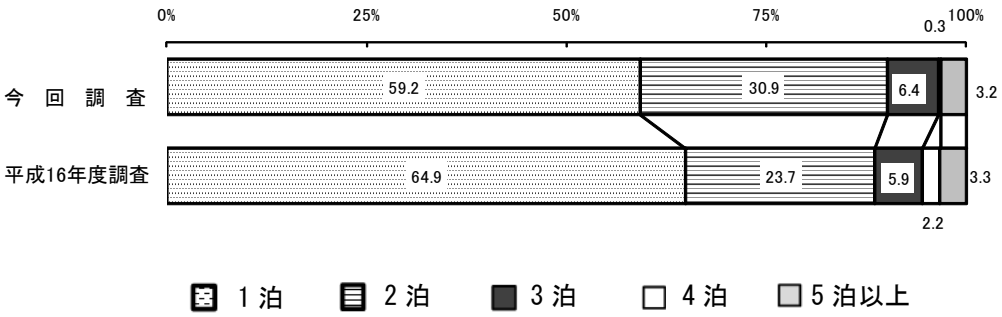
宿泊客全体の市内での宿泊日数は、「１泊」の割合が 40.6%と最も高く、次いで「２泊」が 21.2%となっている。

図表３－３０　宿泊客全体の市内での宿泊日数



市内での宿泊客の宿泊日数をみると、「1 泊」が 59.2%、「2 泊」が 30.9%、「3 泊」が 6.4%となっている。前回調査に比べると「2 泊」、「3 泊」が高くなっており、長期滞在者の割合が増えていることが分かる。

図表３－３１　市内宿泊客の宿泊日数（前回調査との比較）



（３）宿泊形態

全体の旅行日数が「１泊２日」の場合、市内での宿泊は 77.1%。宿泊先は「ホテル」利用の割合が高い。

全体の旅行日数と市内での宿泊日数との関係をみると、全体の旅行日数が「1 泊 2 日」のケースでは、市内の宿泊が 77.1%である。市内での連泊は「2 泊 3 日」では 50.8%、「3 泊 4 日」では 35.0%となっている。

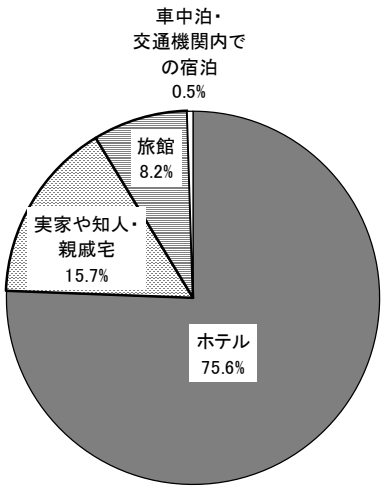
図表３－３２　宿泊客の旅行日数別にみた市内での宿泊日数

（%）

		市内で宿泊する日数				
		1泊	2泊	3泊	4泊	5泊以上
合　計		59.2	30.9	6.4	0.3	3.2
全体の旅行日数	1泊2日	77.1	－	－	－	－
	2泊3日	14.3	50.8	－	－	－
	3泊4日	21.7	11.7	35.0	－	－
	4泊5日	14.3	9.5	4.8	4.8	－
	5泊以上	26.9	7.7	－	－	42.3

宿泊先では、「ホテル」が 75.6%、次いで「実家や知人・親戚宅」が 15.7%、「旅館」が 8.2%と、「ホテル」利用の割合が、極めて高い。

図表３－３３　市内の宿泊先

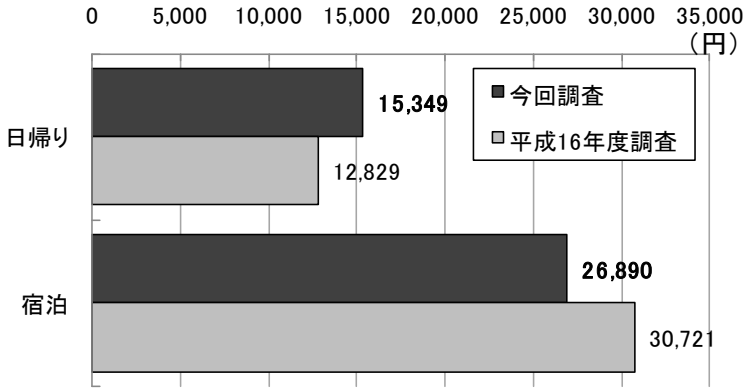


（４）１人当たりの観光消費額

「日帰り」が約１万５千円、「宿泊」が約２万７千円。

市内での１人当たりの観光消費額は、「日帰り」が 15,349 円、「宿泊」が 26,890 円となっている。前回調査と比較すると、日帰り客の消費額が約 2,500 円増加したのに対し、宿泊客の消費額は約 3,800 円減少している。

図表３－３４　１人当たりの観光消費額（日帰り・宿泊別）（前回調査との比較）



※費用の算出方法について

費用の算出方法は次の手順で行った。例えば、2,001 円～4,000 円の項で 3,000 円、4,001 円～6,000 円の項では 5,000 円というように 2 千円単位で設定した全ての金額帯について中央値を設定した。そして、その金額帯に該当する人数と中央値を乗じ、この手順でそれぞれ目的別に合計金額、該当人数を算出し、その合計金額を該当人数で除することで費用を算出している。ただし、最も高い金額帯に関しては、便宜上、中央値を宿泊費では 20,000 円、その他の費用では 10,000 円として費用を算出している。

１人当たりの観光消費額の詳細をみると、「土産代」、「交通費（市内のみ）」、「飲食・喫茶費」で、「宿泊」が「日帰り」を上回っている。

性別でみると、「日帰り」、「宿泊」の両方において「女性」の消費額が「男性」を上回っている。年齢別でみると、「日帰り」では「60 歳代」が、「宿泊」では「50 歳代」が他の年齢と比べて高い。

図表３－３５　性別、年齢別にみた
１人当たりの観光消費額の詳細（日帰り・宿泊別）

（円）

		日帰り						宿泊						
		合計	買い物代	土産代	交通費（市内のみ）	飲食・喫茶費	その他（入場費等）	合計	宿泊費	買い物代	土産代	交通費（市内のみ）	飲食・喫茶費	その他（入場費等）
国内観光客		15,349	7,476	2,990	1,177	1,571	2,135	26,890	7,090	7,029	4,434	2,615	4,186	1,536
性別	男性	12,473	6,956	2,292	974	1,551	700	25,837	6,734	6,764	3,743	2,849	4,111	1,636
	女性	16,803	7,996	3,222	1,257	1,609	2,719	28,215	7,722	7,294	4,977	2,407	4,250	1,565
年齢別	10歳代	11,586	6,981	1,167	759	750	1,929	20,905	4,500	5,817	3,500	2,111	3,227	1,750
	20歳代	15,604	7,401	4,200	1,404	1,407	1,192	26,726	7,231	7,016	4,171	2,120	4,214	1,974
	30歳代	15,298	7,391	3,889	1,074	2,000	944	26,826	6,750	7,203	4,161	2,979	4,533	1,200
	40歳代	16,883	7,482	2,071	1,167	2,100	4,063	26,772	6,188	7,184	4,796	2,545	4,273	1,786
	50歳代	16,801	7,794	2,444	2,375	1,250	2,938	30,331	7,917	7,918	5,706	2,675	4,615	1,500
	60歳代	17,931	7,950	2,813	1,132	1,786	4,250	26,958	8,429	7,224	4,269	3,036	3,500	500
	70歳代以上	15,305	7,276	2,000	1,029	2,500	2,500	24,460	5,500	6,549	4,447	4,250	3,214	500

３－２　外国人観光客

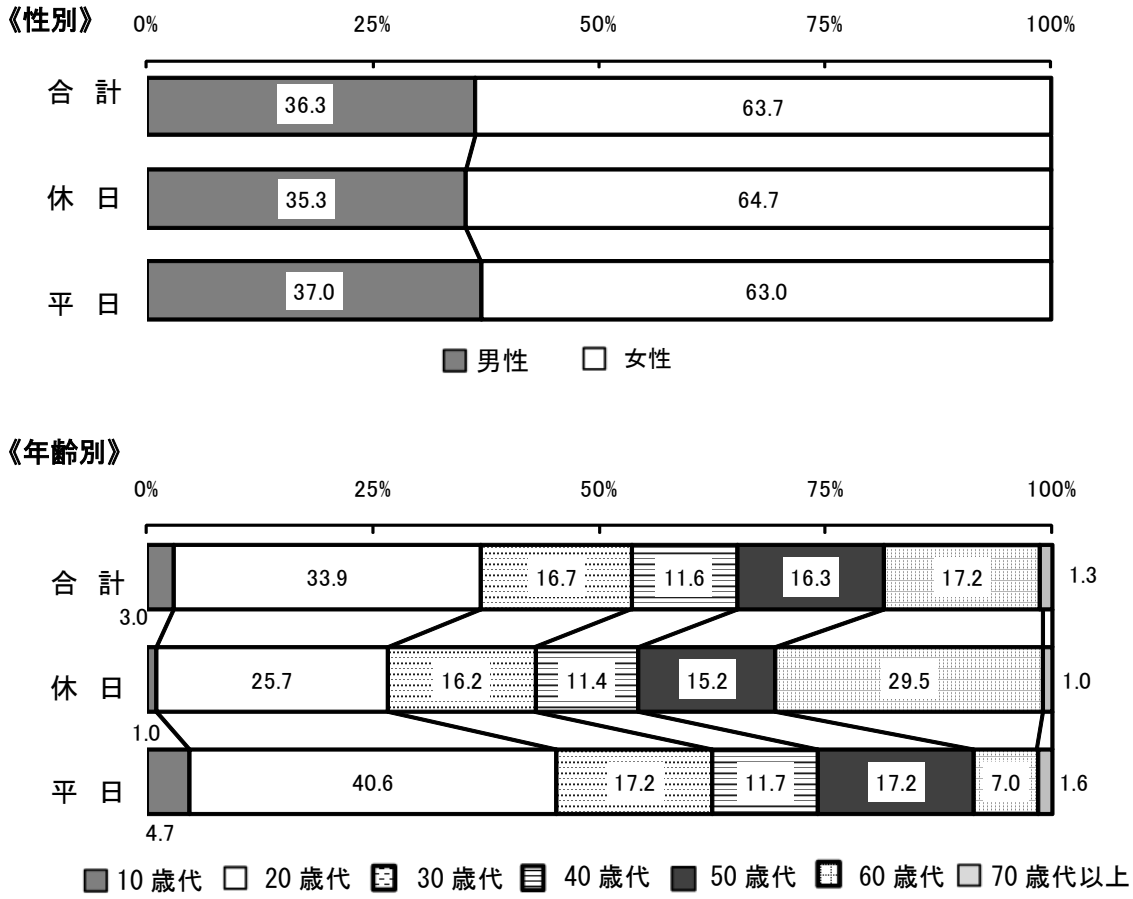
ここでは、近年増加傾向にある外国人観光客の動向を分析し、その特徴を明らかにする。

３－２－１　性別・年齢別構成

性別では、休日・平日ともに「女性」の割合が高い。
年齢別では、全体的に「20 歳代」が最も高いが、休日では「60 歳代」が高い。

外国人観光者を性別でみると、「女性」の割合が休日・平日とも「男性」より高い。年齢別では、「20 歳代」の割合が最も高いが、特に平日（40.6%）が休日（25.7%）より高く、「60 歳代」は休日（29.5%）が平日（7.0%）より高くなっている。

図表３－３６　休日・平日別にみた性別・年齢別構成

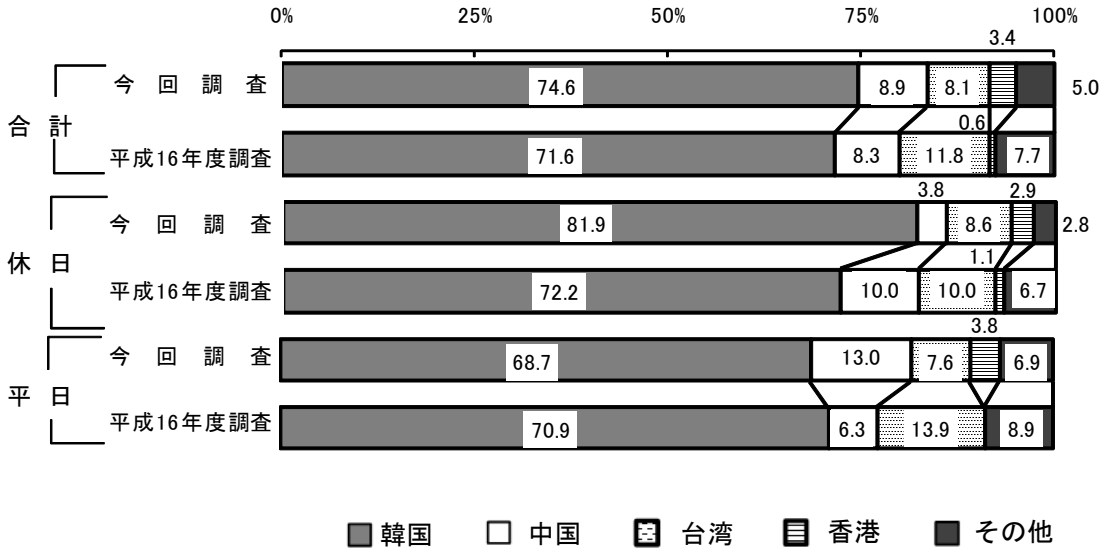


３－２－２　居住国・地域

「韓国」が最も高く、全体の７割以上を占める。
休日は「韓国」、平日は「中国」が伸びている。

居住国・地域では「韓国」の割合が 74.6％（休日 81.9％、平日 68.7％）と最も高い。次いで「中国」が 8.9％（休日 3.8％、平日 13.0％）、台湾が 8.1％（休日 8.6％、平日 7.6％）となっている。前回調査と比較すると、「韓国」、「中国」及び「香港」が増えており、「韓国」は休日が、「中国」は平日が増え、「台湾」は休日・平日ともに減少している。

図表３－３７　休日・平日別にみた居住国・地域（前回調査との比較）



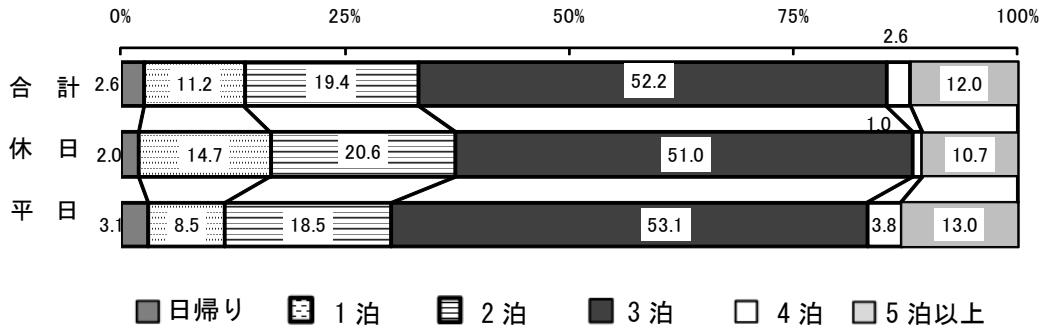
３－２－３　旅行日数

平日・休日ともに「３泊」が増加、「４泊」以上が減少。

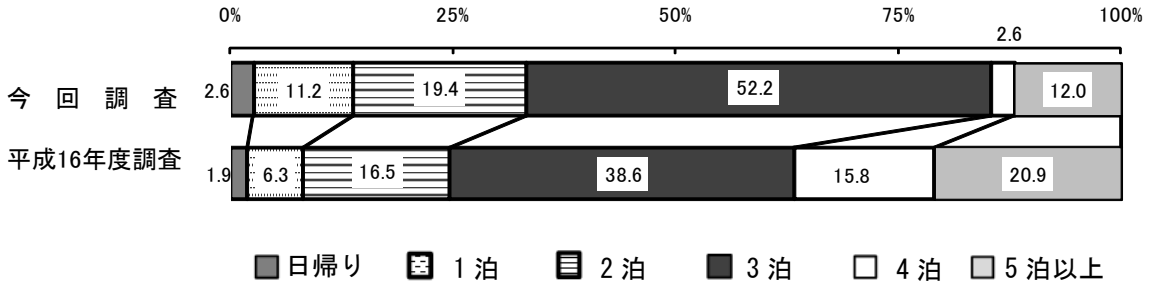
旅行日数では「３泊」（52.2%）の割合が最も高く、次いで「２泊」が 19.4%となっている。

前回調査と比較すると、「４泊」以上が 36.7%から 14.6%に大きく減少している。交通利便性の向上などによって、旅行日数が短くなっていると思われる。

図表３－３８　休日・平日別にみた旅行日数



図表３－３９　旅行日数（前回調査との比較）



３－２－４　旅行グループ

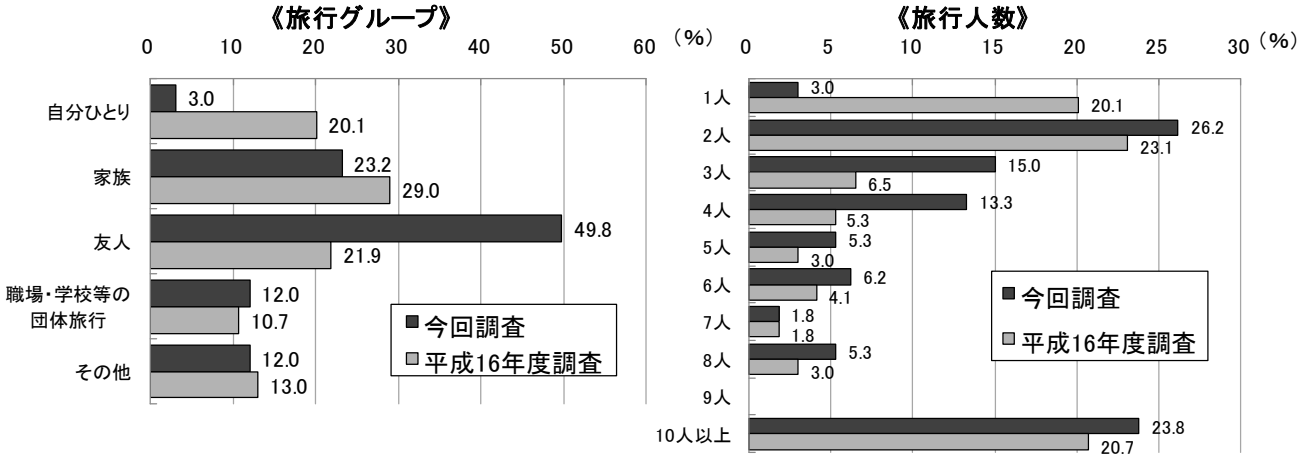
旅行グループでは、「友人」が最も高い。旅行人数では、「２～４人」が全体の半数以上を占めているが、「10 人以上」の割合も高い。

旅行グループでは「友人」が 49.8％と最も高く、次いで「家族」（23.2％）、「職場・学校等の団体」（12.0％）の順となっている。旅行人数では、「２人」が 26.2％と最も高く、次いで「10 人以上」（23.8％）、「３人」（15.0％）となっている。

前回調査と比較すると、旅行グループは「自分ひとり」が 20.1％から 3.0％に 17.1 ポイント減少しているが、「友人」は 21.9％から 49.8％に 27.9 ポイント増加している。

旅行人数では特に「３人」、「４人」が増加しており、韓国人観光客は同行人数も多様化している。また、中国人観光客の増加により、全体の傾向の変化があったと思われる。

図表３－４０　旅行グループ、旅行人数（前回調査との比較）



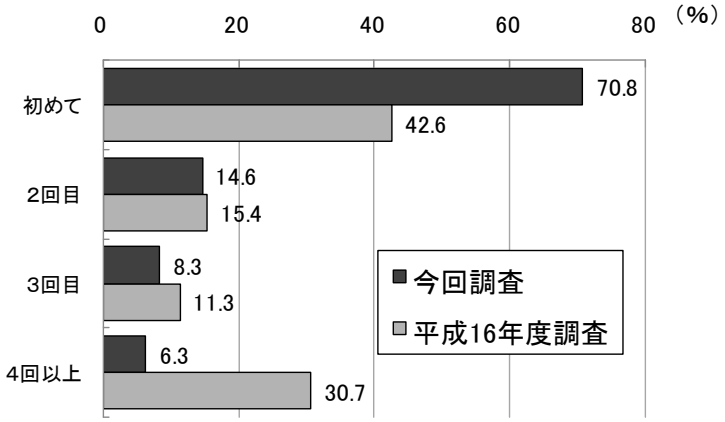
３－２－５　来訪回数

「初めて」が 70.8%、リピーターの割合は 29.2%である。

来訪回数は、「初めて」が 70.8%を占め、次いで「２回目」(14.6%)、「３回目」(8.3%)の順で、リピーター（来訪回数２回以上）の割合は 29.2%である。前回調査と比較すると、「初めて」は、42.6%から 70.8%と、大幅に増加している。

今回の調査では、特に 20 歳代の韓国人観光客が多かったことや、中国人観光客が増加したことが「初めて」の割合を押し上げた要因と考えられる。

図表３－４１　来訪回数（前回調査との比較）



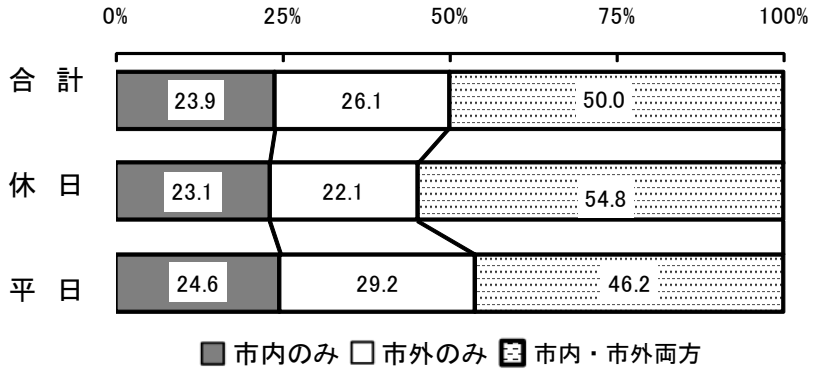
３－２－６　立ち寄り状況

（１）立ち寄り状況（市内・市外）

「市内・市外両方」に立ち寄る割合が高い。

立ち寄り先については、「市内・市外両方」の割合が高い。休日・平日別でみると、「市内・市外両方」は休日（54.8%）が、平日（46.2%）と比べて高く、「市内のみ」（休日23.1%、平日24.6%）と「市外のみ」（休日22.1%、平日29.2%）では、ともに平日の方が休日よりも高くなっている。

図表３－４２　休日・平日別にみた立ち寄り先（市内・市外）



（２）市内での立ち寄り場所

天神周辺地区に立ち寄る割合が最も高い。

立ち寄り場所の詳細をみると、「ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設」が最も高く、中でも「天神（百貨店以外）」（88.6%）、「大名・西通り周辺」（66.3%）、「天神（百貨店）」（65.7%）と、天神周辺地区に立ち寄る割合が高い。次いで、「キャナルシティ博多周辺」（50.3%）となっている。

図表３－４３　市内での具体的な立ち寄り場所（複数回答）

（%）

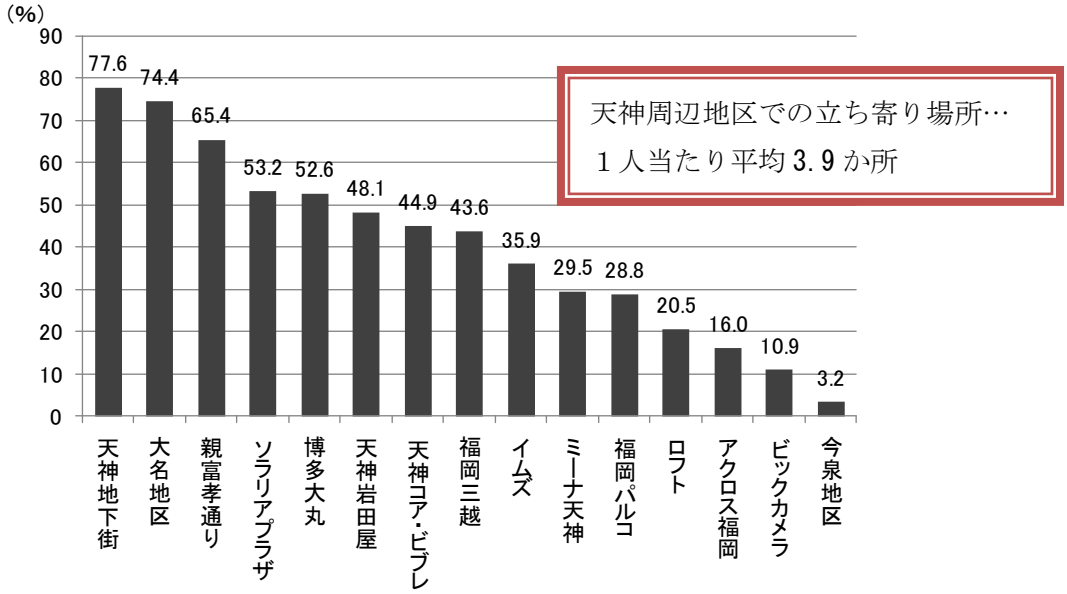
ショッピング、飲食、レジャー施設、スポーツ施設	98.8	天神（百貨店以外）	88.6
		大名・西通り周辺	66.3
		天神（百貨店）	65.7
		キャナルシティ博多周辺	50.3
		百道（ホークスタウン）周辺	3.4
		中洲川端地区	1.7
		姪浜（マリノア）周辺	1.1
動植物園、公園など	5.2	福岡タワー	4.0
		能古島アイランドパーク	0.6
		大濠公園内日本庭園	0.6
旧跡、神社、仏閣	1.2	板付遺跡	0.6
		櫛田神社	0.6
劇場、ホール、映画館など	0.6	博多座	0.6
美術館、博物館など	0.6	博多町家ふるさと館	0.6
視察・会議・展示会など	0.6	福岡国際会議場	0.6

（３）天神周辺地区での立ち寄り場所

「天神地下街」が最も高く、次が「大名地区」。

天神周辺地区での立ち寄り場所は、「天神地下街」（77.6％）、「大名地区」（74.4％）、「親富孝通り」（65.4％）の順に高い。天神周辺地区の１人当たり平均立ち寄り場所は3.9か所である。

図表３－４４　天神周辺地区での主な立ち寄り場所（複数回答）



（４）本市以外での立ち寄り先

本市以外の立ち寄り先は「熊本県」、「大分県」、「長崎県」の順に高い。具体的な立ち寄り先は「阿蘇」、「別府」の割合が高い。

本市以外の立ち寄り先では、「熊本県」(60.1%)が最も高く、次いで「大分県」(52.2%)、「長崎県」（23.0%）、「九州外」（12.9%）の順となっている。

具体的な立ち寄り先は、福岡県内では「太宰府」の割合が 16.3%と最も高く、福岡県外では「阿蘇」（48.9%）、「別府」（48.3%）、「長崎市内/周辺」（18.5%）の順となっている。

図表３－４５　本市以外での立ち寄り先（複数回答）

（%）

福岡県	18.0	太宰府	16.3
		北九州	1.7
		その他	1.1
佐賀県	1.1	佐賀市内/周辺	1.1
長崎県	23.0	長崎市内/周辺	18.5
		ハウステンボス	0.6
		その他	4.5
熊本県	60.1	阿蘇	48.9
		熊本市内/周辺	10.7
		その他	5.1
大分県	52.2	別府	48.3
		湯布院	2.2
		その他	3.9
宮崎県	2.2	宮崎市内/周辺	3.4
鹿児島県	7.9	鹿児島市内/周辺	6.7
		その他	1.7
九州外	12.9		

九州外の内訳

（%）

東京都	7.4
大阪府	4.0
北海道	1.7
広島県	1.1
京都府	1.1
横浜市	1.1
千葉県	1.1
青森県	1.1
その他	1.8

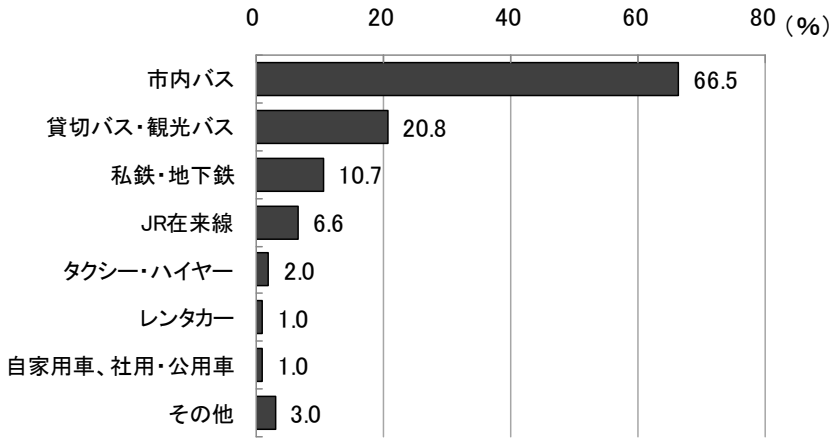
３－２－７　市内での観光形態

（１）移動手段

市内での移動手段は、「市内バス」、「貸切バス・観光バス」、「私鉄・地下鉄」の順に高い。

市内での移動手段は、「市内バス」（66.5%）が最も高く、次いで「貸切バス・観光バス」（20.8%）、「私鉄・地下鉄」（10.7%）の順となっている。

図表３－４６　市内での移動手段（複数回答）

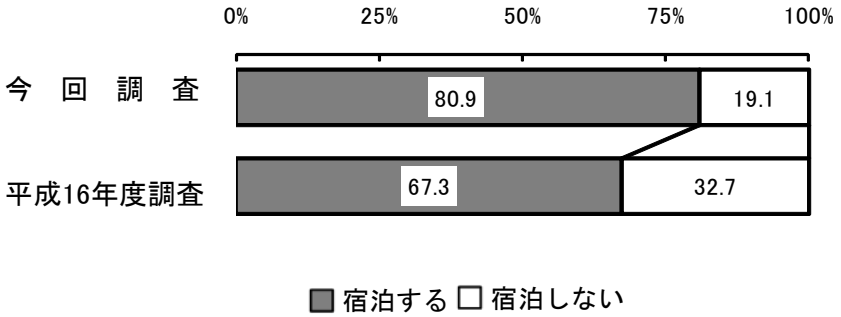


（２）宿泊状況

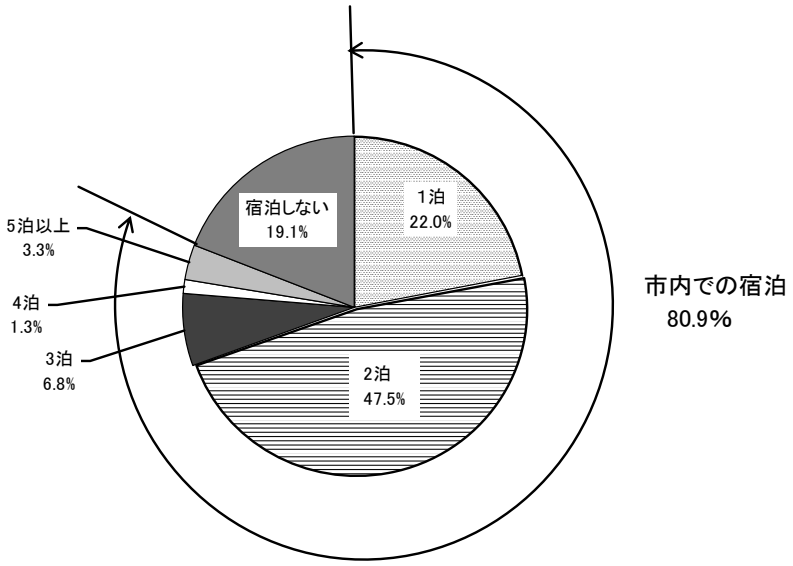
市内で宿泊する割合は約８割。宿泊日数は「１泊」及び「２泊」が７割以上。
宿泊先は「ホテル」利用が 97.2%を占める。

宿泊客のうち市内で宿泊する割合は 80.9%で、前回調査と比べると、「宿泊する」が高くなっている。また、宿泊日数は、「2 泊」が 47.5%と最も高く、次いで「１泊」が 22.0%となっている。

図表３－４７　宿泊客全体の市内での宿泊（前回調査との比較）

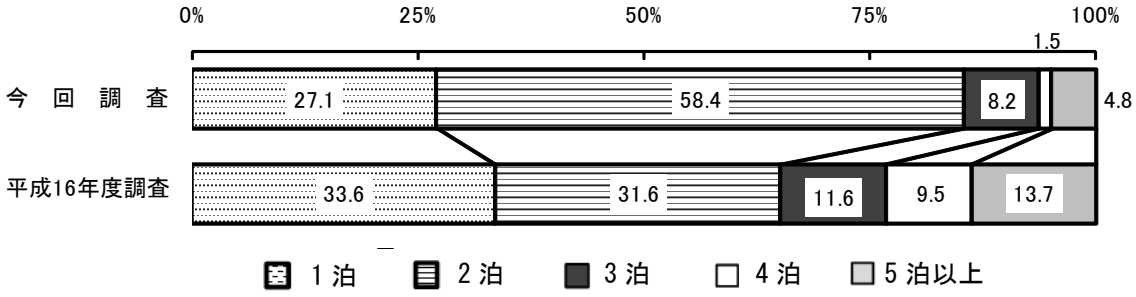


図表３－４８　宿泊客全体の市内での宿泊日数



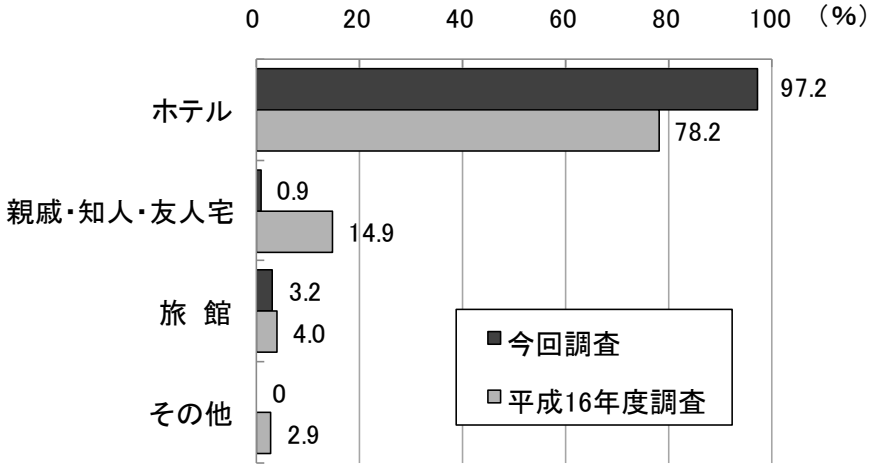
市内宿泊客の宿泊日数を前回調査と比較すると、「１泊」が 33.6%から 27.1%に減少し、「２泊」が 31.6%から 58.4%に大幅に増加している。また、「３泊」以上の長期滞在は減少している。

図表３－４９　市内宿泊客の宿泊日数（前回調査との比較）



宿泊先では、「ホテル」の割合が 97.2%と最も高い。前回調査と比較すると、「ホテル」の割合が前回の 78.2%より大幅に増加している。

図表３－５０　市内の宿泊先（複数回答）



（３）１人当たりの観光消費額

外国人観光客の市内での観光消費額は、41,806 円となっている。

外国人観光客の市内での１人当たりの観光消費額は 41,806 円となっており、前回調査と比べて約 1,500 円増加している。

図表３－５１　１人当たりの観光消費額（前回調査との比較）

（円）

	合　計	宿泊費	買い物代	土産品代	交通費（市内のみ）	飲食・喫茶費	その他（入場費等）
今　回　調　査	41,806	9,539	10,083	6,379	3,742	5,174	6,889
平成16年度調査	40,305	8,362	9,789	7,099	5,951	6,878	2,226

観光消費額の詳細を性別でみると、「男性」が「女性」より高くなっている。
年齢別にみると、「30 歳代」が最も高く、次いで「50 歳代」、「20 歳代」となっている。

図表３－５２　性別、年齢別にみた１人当たりの観光消費額の詳細

（円）

		合計	宿泊費	買い物代	土産代	交通費（市内のみ）	飲食・喫茶費	その他（入場費等）
		41,806	9,539	10,083	6,379	3,742	5,174	6,889
性別	男性	44,957	9,667	10,426	6,310	5,884	5,884	6,786
	女性	41,999	9,456	9,740	6,261	4,721	4,721	7,100
年齢別	10歳代	16,440	9,500	4,440	2,500	－	－	－
	20歳代	45,492	10,438	12,286	6,790	5,789	5,789	4,400
	30歳代	49,270	9,500	13,306	6,464	6,000	6,000	8,000
	40歳代	35,406	8,071	9,562	6,647	5,563	5,563	－
	50歳代	45,673	9,500	12,335	5,588	4,500	4,500	9,250
	60歳代	31,634	8,518	8,521	5,545	4,522	4,528	－
	70歳代以上	32,456	9,500	8,461	5,545	4,475	4,475	－

第4章　観光の動向と
本市観光の方向性

第４章　観光の動向と本市観光の方向性

４－１　観光の動向

（１）国内・海外旅行の動向

近年の我が国の観光の動向をみると、国内宿泊観光旅行回数や海外旅行者数は伸び悩み、国内旅行消費額は横ばいである。平成 21 年版観光白書（以下「観光白書」という。）によると、平成 20 年度における国民 1 人当たりの国内宿泊観光旅行回数は 1.55 回、同宿泊数は 2.44 泊と推計され、平成３年をピークに減少傾向にある。また平成 20 年の国民の海外旅行者数は約 1,599 万人であり，２年連続して減少している。国内旅行消費額は 23.5 兆円でほぼ横ばいである。

一方で、新たな観光交流事業を推し進める地域や、観光ビジネスに取り組む地域が増えており、国内観光を取り巻く環境も大きく変化してきている。

（２）訪日外国人の動向

ア　全国の状況

観光白書によると、平成 20 年の訪日外国人旅行者は世界的な金融危機による景気後退や円高の急進の影響を受け 835 万人とほぼ横ばいである。国別にみると、韓国 238 万人、台湾 139 万人、中国 100 万人の順で、特に中国からの訪日旅行者は 6.2%増と目覚しい伸びを示しており、平成 22 年 7 月には個人観光ビザの緩和も予定されることから、今後さらに増加するものと期待されている。

イ　九州・福岡の状況

法務省の出入国管理統計によると、平成20年の九州の外国人入国者数は、前年比6.2%減の87万人であり、うち約95%はアジアからの旅行者である。国別で最も多いのは韓国で、前年比9.5%減であるが、入国者数は58万人で全体の67%を占めている。以下、台湾、中国と続き、特に中国は、訪日外国人全体が減少するなかで前年比8.4%の増となっている。世界的な景気後退や韓国の急激なウォン安などによる影響を受けているものの、九州におけるアジア、とくに韓国が占める割合は依然として高く、韓国人が最も多く入国する港は博多港で、平成20年は26万人が入国している。

平成20年の福岡空港及び博多港の外国人入国者数は、前年比3.0%減の70万人であり、九州の外国人旅行客の80.3%、また韓国人旅行客の77.3%を占めている。

近年は福岡空港や博多港とアジア各都市をつなぐ多くの航空路線・海上交通路線が就航しており、九州新幹線の全線開通や在来線、高速バス等の交通網の充実により、九州一円のネットワークも充実してきている。

このように、九州の外国人観光客は、まず福岡から入国し、福岡を起点として九州内を移動している状況が見て取れる。

（左：福岡国際空港，　右：博多港国際ターミナル）

（３）中国からの訪日旅行者の動向

ア　個人観光ビザの拡大

中国の海外旅行消費額は、世界的な不況のなかでも、平成 21 年に 437 億ドル（前年比 21%増）に達し、世界第４位の旅行消費国になった。2010 年（平成 22 年）の海外旅行者は 5,400 万人、2020 年（平成 32 年）には 1 億人となる見込みで、中国は海外旅行ブームの時代に入っている。

政府は、これまで年収 25 万元（約 336 万円）以上の富裕層に限られていた中国の個人向けビザの発給を、平成 22 年 7 月から年収の低い中間層にも大幅に拡大すると表明しており、今後、中国の個人旅行需要の拡大は，九州の観光産業の大きな起爆剤になる可能性がある。

イ　クルーズ客船の寄港増大

これまで、中国人旅行客の訪問先は、東京、名古屋、大阪を結ぶいわゆる「ゴールデンルート」及びその周辺地域が圧倒的な割合を占めており、地方都市への観光は非常に少ないのが現状である。しかしながら、近年は、中国発着のクルーズ客船が九州に相次いで寄港しており、寄港回数も、平成 20 年の 86 回から平成 22 年は 156 回に、うち福岡には 24 回から約３倍の 66 回に大幅に増える予定である。平成 22 年 1 月に本市が発表した「外国クルーズ客船寄港による福岡市経済への波及効果等調査（以下「クルーズ調査」という。）」では、平成 21 年の 24 回の寄港により 2 万 9,300 人が訪れ、経済波及効果は 10 億 5,700 万円、66 回寄港する平成 22 年では 28 億 9 千万円になると試算している。

クルーズ客船の寄港は、このように中国人観光客をじかに地域に呼び込むことによる経済効果だけでなく、来福したクルーズ客がリピーターになることで顧客の定着化が図れるとともに、クルーズ会社の宣伝や中国国内の雑誌・インターネットの記事、来訪者の口コミなどによる「福岡の評判」を通じて、将来個人客となり得る中国の中間層に対して、他の地域よりも先んじて効果的に情報を発信し、顧客の新規開拓につながる、といったメリットが考えられる。

また、実際に中国人観光客が来訪することで、いち早く中国人向けの受入態勢の整備に着手できる意味でも大きなチャンスであるといえる。

（今年寄港したレジェンド・オブ・ザ・シーズ号，　右：出港時の送迎の様子）

（４）「九州１日観光圏」の拡大

2011 年（平成 23 年）春の九州新幹線鹿児島ルートの全線開通に伴い、博多～鹿児島中央間は，現行より約 50 分短縮され、1 時間 20 分で結ばれる予定である。これによって、本市から鹿児島までが日帰り観光圏内に入り、「九州 1 日観光圏」が拡大する。これを九州外の観光客からみれば、同じ日程で広く様々な観光地を回遊できる環境が整うことになる。一方で、福岡からみれば、九州新幹線の全線開通により関西から熊本や鹿児島まで直接結ばれることで、福岡は単なる通過点になってしまうのではないかとの懸念も示されている。

今後も、九州新幹線長崎ルートや高速道路網の伸展により（「交通機関・幹線道路の整備状況」P. 18 参照）、さらに移動時間の短縮が進むことが見込まれている。

（2011年3月に全面開通予定の九州新幹線）

４－２　本市観光の方向性

（１）本市における観光の意義

観光は、宿泊業、旅行業、交通業、飲食業などの第３次産業を中心とした裾野の広い産業構造を持っており、経済波及効果が高く、地域経済の活性化や雇用機会の増大に資するだけでなく、地域を越えた交流による相互理解の増進といった重要な意義を有している。我が国における観光立国の推進は、極めて厳しい状況にある我が国経済の活性化に寄与するものであり、政府の成長戦略における主要な柱の一つとされている。

本市は、観光による経済波及効果が高いサービス業などの第３次産業が全体の９割を占めており、中国をはじめとした成長するアジアに地理的に近く、アジアと二千年の交流の歴史を持っている。

また、多くの観光客を惹き付けている都市は、まちの資源と施設を活用した相乗効果で魅力を高めていることが多いが、本市は、歴史・伝統文化から新しいトレンド、遊びからビジネス・学び、豊かな自然・食から最先端の現代建築といった多彩な都市型観光資源に加えて、アジアと九州の結節点である空港や港湾、道路、鉄道などの交通インフラや、文化・スポーツ、ショッピング、娯楽といった商業・文化施設などが整備されており、これらの資源や施設が、時間的・場所的に近接するエリアに集積している「コンパクトシティ」である。

よって、このような特徴を持つ本市は、特に集客力の向上に重点的に取り組むことによる効果が大きいものと考えられる。

以下、このような本市の特徴も踏まえ、今回実施した本市の観光客動態調査（以下「本調査」という。）の結果を用いながら、本市において重点的に取り組むべき観光事業の方向性について検討してみたい。

（２）初めての訪問でもわかりやすい情報提供の取組み

来福観光客は女性が６割、年齢別では 20 歳代が最も高く、60 歳代以上が２割を占めている（P. 12 図表 3-1）。また，旅行グループは「家族」と「友人」がそれぞれ４割と高く、旅行人数は「２人」が最も高い（P. 19 図表 3-8）。

本市への利便性の向上に伴い、個人や少人数の旅行と日常的な楽しみを求める若い世代が増えており、高齢者も引き続き同程度の割合で来福している。これらの旅行者は、市民と同じ立場で公共交通機関を利用する機会が増えていることから、初めての訪問でもわかりやすい情報（路線、運賃、時刻表、周辺施設案内・マップなど）の提供の取組みが重要となってきている。

（３）本市への立ち寄りを増やす取組み

本市への立ち寄り状況では、「市内のみ」に立ち寄る場合と「市外のみ」すなわち本市を交通アクセスの通過点としてのみ利用する場合が増えており、「市内・市外両方」が減少している（P.8 図表 2-7）。九州新幹線の全線開通に伴い、さらに本市が通過点になるケースの増加が懸念されるところである。

よって、本市への立ち寄りを増やす仕組みづくりが必要である。そこで、移動時間の短縮を活かし、九州の観光地と連携して福岡と九州内を合わせて周遊するような、魅力ある観光商品を開発する必要がある。また、本市への立ち寄りを増やすため、福岡・博多の魅力をより広く、また深く知ってもらえるような、歴史文化資源の開発や食の観光資源化など、都市型観光メニューの充実と観光情報発信の強化に取り組む必要がある。

（左：来福者で賑わう天神地下街，　中央：キャナルシティ博多，　右：シーサイドももち地区）

（４）宿泊客を増やし、日帰り客を長く滞在させる取組み

本調査によると、国内では「旅行日数」は、前回調査と比べて「日帰り」の割合が増加し、宿泊日数は短くなっている（P.7 図表 2-5）。本市への移動が便利になり、九州エリアが時間的に近くなったことで、気軽な「日帰り」旅行の増加につながっていると考えられ、交流の活発化が期待される。

一方で、市内宿泊客の宿泊日数では、前回の調査と比べて２泊と３泊の割合が増え、全体として長期滞在客の割合が増えている（P.7 図表 2-6）。

また、「１人当たりの観光消費額」をみると、日帰り（15,349 円）よりも宿泊（26,890 円）の方が多い。また、世界的な不況で全国的に厳しい経済状況のなか、前回調査と比べて、国内の宿泊客は約 3,800 円減となる一方で、日帰り客は約 2,500 円増であり、外国人観光客も約 1,500 円増となっている（P.37 図表 3-34，P.50 図表 3-51）。

今後、経済波及効果をさらに高めるためには、消費額が多い宿泊客を増やすための取組みや、移動時間の短縮に伴い、日帰りでもこれまでより長く本市に滞在していただき、市内での消費を増やすための取組みなどに力を入れていく必要がある。

（５）都市観光地としての魅力向上の取組み

本調査によると、市内の立ち寄り状況では、「ショッピング，飲食，レジャー施設，スポーツ施設（以下「ショッピング等」という。）」が９割と圧倒的に高いものの、前回調査と比べて「動植物園、公園など」「旧跡、神社、仏閣」の割合が増えており、立ち寄り先の多様化が徐々に進んでいる傾向が見られる（P.8 図表 2-8）。

成熟した国内の観光マーケットでは、ニーズの個性化、多様化が強まっており、従来の単に観光名所を訪問・見学する旅行から、今後は、知的探究心を満足させ、異なる生活文化を実体験するなど、新たな価値を持たせたテーマ性のある旅行にシフトしていくものと思われる。また、最近の観光の傾向として、地域でのふれあい・体験型の観光が主流となってきている。

こうした流れを踏まえ、都市そのものを人々の自己実現や交流のための時間消費を楽しむ舞台装置とすることが、都市観光地としての魅力向上にとって重要である。

また、観光客の嗜好の多様化から、一つの観光名所だけでは人を集めにくくなってきている。ハードの整備だけでなく、都市のさまざまな資源が持つ魅力を再発見する回遊の仕掛けなど、ソフトな仕組みも合わせて作っていく必要があると考える。

（左：博多部でのイベント「博多秋博」，　右：観光案内ボランティアによるまち歩き）

本調査によると、「動植物園、公園など」「劇場、ホール、映画館など」「旧跡、神社、仏閣」が主な目的の場合には、他の目的の施設に立ち寄る割合がそれぞれ 70.7%、66.6%、55.0%と「ショッピング等」の場合の 13.8%に比べて圧倒的に高く、都市の回遊性につながる可能性があることが示されている（P.31 図表 3-23）。

よって、今後は、このような歴史や伝統的な祭り、文化、芸術、自然や食といった本市ならではの地域の資源を活用して、成熟した観光客も満足できるようなテーマ性のある魅力づくりに力を入れることが重要である。

（左：櫛田神社，　中央：博多祇園山笠，　右：柳橋連合市場）

（６）まちの回遊性を強化する取組み

本調査によると、市内移動手段は「市内バス」「私鉄・地下鉄」「ＪＲ在来線」の順に高く、来福観光客は公共交通機関を多く利用している（P.32 図表 3-24）のに対し、観光白書によると、全国的には「自家用車の利用」が観光客の移動手段では最も多くなっている。

また、本調査によると、観光客の市内での具体的な立ち寄り場所は「天神（百貨店以外）」(68.0%)が最も高く、ついで「大名・西通り周辺」(20.9%)、「キャナルシティ博多周辺」(20.7%)、「天神（百貨店）」(14.7%)が他を引き離しており、都心部の商業施設に集中している傾向にある(P.25 図表 3-15)。

よって、公共交通機関が整い、近くて移動しやすい本市の特性を活かして、都心部だけでなく、多彩な本市の魅力を観光客に紹介するため、市内のいろいろな資源や施設をつなぎ、回遊性を強化することが、今後の集客にとって効果的であると考えられる。そのためには、資源の魅力を高めるとともに、案内機能の充実や、情報発信機能を強化する必要がある。

（左：市営地下鉄天神駅，　中央：観光地をめぐるシティループバス「ぐりーん」，　右：改装された天神観光案内所）

（７）アジア大交流時代に向けた取組み

冒頭で述べたように、アジア諸国においては、旅行需要の増加が顕著である。増加の要因として、第一にアジア地域の経済成長による富裕層・中間層の増大、第二に東アジア諸国での海外旅行に関する規制緩和があげられる。近年の例では、韓国における 1993 年(平成５年)の訪日旅行でのノービザ化、中国における 2000 年(平成 12 年)の団体観光ビザの発給開始を契機に、両国からの海外旅行者数が大幅に増加している。

また、訪日外国人旅行者を国籍別にみると、現在は韓国が多いが、今後は中国が大きく伸び、旅行形態も団体から個人に変化していくものと推測される。2010 年(平成 22 年)7 月に予定されている個人向けビザの発給の緩和は、短期的には関東圏、関西圏を中心に旅行客の増大につながると思われるが、中長期的には地方の都市にも拡大するものと考えられ、その集客に向けて都市間の競争がさらに激化すると予想されている。

本市においては、1989年（平成元年）から、福岡アジアマンスをはじめとした様々なアジアに関連する施策を展開し、アジアとの交流を深めてきている。近年は、釜山広域市との超広域経済圏を推進しており、釜山との共同観光圏の構想により中国をはじめとする東アジアとのさらなる交流の拡大が望まれる。

よって、さらなる観光交流の拡大のためには、中国各都市やソウル、東京などに向けた、釜山広域市と共同による戦略的なプロモーションを実施するとともに、中国、韓国などアジアに向けたインターネットや雑誌等の媒体、旅行展などを活用した情報発信に取組む必要がある。

（左・中央：アジア太平洋フェスティバル福岡，　右：中国・上海での釜山・福岡観光説明会）

また、中国におけるクルーズ客船の旅行ツアーの需要は、今後も順調に推移することが見込まれる。前述の本市のクルーズ調査によると、クルーズ客船による来福客の満足度は、すべての項目で６～８割の乗客から「良かった」との回答を得た一方で、「商業施設での外国語対応」の項目で「悪かった」との回答が約２割あった。また、クルーズ関係者からは、ＣＩＱ（入管、税関、検疫の手続き）の待ち時間の長さが指摘されている。

よって、今後も引き続き、本市にクルーズ客船の寄港を誘致していくためには、法務省など関係機関と連携した入管手続きの迅速化や、現行の（財）福岡観光コンベンションビューローのウェルカムサポーター制度の活用だけでなく、国の通訳案内士制度のあり方に関する検討も踏まえつつ、外国語による案内機能を強化するなど、受入体制のさらなる充実を図っていく必要がある。

（８）これからの本市観光の方向性

以上述べてきたように、本市の今後のまちづくりにおいては、国内外との集客交流を促進する拠点性を一層強化していくことが期待されている。

よって、本市は、アジアとの地理的・歴史的な優位性や、福岡空港と博多港、新博多駅という国内外に開かれた空・海・陸の交通拠点と、国内外と九州内の移動時間の短縮効果、九州各都市との連携を活かし、アジアと日本をつなぐ九州観光のゲートウェイ都市を目指すことが重要である。

そのためには、アジアや首都圏・関西圏など国内外からの多様な観光ニーズに応えられる複合的な魅力を高め、受入環境を充実するとともに、福岡だけでなく九州全体への集客を増やすため、九州内での連携を図りながら、国内外に向けたプロモーションにより情報発信に努めていく必要がある。

このように、本市と国内外との集客交流の推進を図ることが、本市の経済活力・文化創造の原動力となり、「おもてなしの心を持った国際集客文化都市」としての本市の成長につながっていくものと考えられる。

（福岡市の街並み）

第5章　観光入込客統計調査（国基準）の試行結果

第５章　観光入込客統計調査（国基準）の試行結果

５－１　観光入込客統計調査（国基準）の概要

平成 22 年度から、国（観光庁）は「観光入込客統計調査（以下「国の基準調査」という。）」により、全国共通の基準・方法に基づき「観光入込客数」及び「観光消費額」を推計する統計調査を実施する。本市では、今回の平成 21 年度観光客動態調査に合わせて、国の基準調査で示されている調査方法を用いて、独自に調査を実施した。第５章では、その試行結果をまとめる。

（１）調査目的

今回調査した目的は、国の基準調査の調査方法を本市で用いた場合の結果に対し、これまでの本市独自の調査方法による結果と比較・分析して、今後の統計調査の方法を検討する基礎資料とするために、試行として行ったものである。

（２）調査内容

国の基準調査により、全国共通の基準に基づき、本市の「観光入込客数」及び「観光消費額」を推計する。

（３）調査方法

国の基準調査では、観光地点における入込客数の調査（観光地点入込客数調査）と、市内 10 か所の観光地点での調査員による聞き取り調査（観光地点アンケート調査）の結果を組み合わせて、本市全体の「観光入込客数」と「観光消費額」を推計するものである。なお、調査日時などその他の調査方法は、特記なき限り同様である。

これに対し、本市で独自に行ってきた観光統計での「観光入込客数」は、主な交通機関利用者数（駅や空港などで別途調査している交通量に関する統計結果）をもとに推計したものである点で異なっている。

（４）調査地点

国の基準調査に基づき、市内の主な観光地点のうち、年間の入込客数１万人以上が対象。観光地点アンケート調査では、その中から 10 か所を抽出。抽出方法は目的・性質・規模・位置などを総合的に考慮して独自に選定した。

ホークスタウン、キャナルシティ博多、ベイサイドプレイス博多、マリンワールド海の中道、博多座、福岡観光会館はかた、福岡タワー、能古島アイランドパーク、博多町家ふるさと館、大濠公園内日本庭園。標本数の総数は 1,223。

なお、国の基準調査では、特定月の入込客数が５千人以上の行祭事・イベントも合わせて対象としているが、今回の本市調査では、主催者発表が多く精度に難があること、観光地点の入込客との重複の可能性があること等を考慮して、対象から除いている。

（５）調査回数

本来は、国の基準調査では年に４回（３か月に１回）調査を実施した上で年間の統計量を推計すべきであるが、今回の本市調査では、独自に１回限りの調査をもとに、観光地点の年間入込客数等を参考にして、本市全体の年間の統計量を推計した。

５－２　調査の試行結果

（１）年間観光入込客数

国内観光客	１，８５０万人（うち日帰り 1,397 万人、宿泊 453 万人）
外国人観光客	５２万人
合　　計	１，９０２万人

（２）年間観光消費額

国内観光客	３，５６４億円
外国人観光客	４８８億円
合　計	４，０５２億円

参考資料：調査票

※調査票コード

都道府県	調査地点ＩＤ	調査年月日	調査時刻	ＩＤ
			：	

調査票 （日本語版）

Ｑ１．あなたのお住まいはどこですか。国内にお住まいであれば都道府県名、海外であれば国名をご記入下さい。また、この福岡県にお住まいの場合は市町村名をご記入下さい。

（都道府県名：　　）　　海外の場合（国名：　　）

福岡県の場合
→（市町村名　　）

Ｑ２．あなたの性別、年齢を選んで下さい。※それぞれ１つだけ

性別 ： １．男性　　２．女性

年齢 ： １．10歳未満　２．10歳代　３．20歳代　４．30歳代　５．40歳代
６．50歳代　７．60歳代　８．70歳代　９．80歳以上

Ｑ３．今回の旅行は日帰りですか、宿泊ですか。※１つだけ

宿泊であれば、何泊か、そのうち市内では何泊するか、いくつの施設に宿泊するかをご記入下さい。

また、市内ではどのような施設に宿泊するかをご記入下さい。※いくつでも

１．日帰り　２．宿泊

→ 宿泊数＿＿泊 → そのうち福岡市内＿＿泊 ⇒ 市内宿泊施設数＿＿施設

（宿泊した施設の数）

＜市内宿泊施設＞

１．実家や知人・親戚宅　　２．旅館　　３．ホテル
４．ペンション・民宿　　５．保養所・研修所　　６．キャンプ場
７．（ｷｬﾝﾌﾟ場以外の）車中泊・交通機関内での宿泊　　８．別荘・ﾘｿﾞｰﾄﾏﾝｼｮﾝ
９．会員制の宿泊施設　　10．その他

Ｑ４．今回の旅行の主要な目的は何ですか。※１つだけ

１．ビジネス　　２．観光
３．帰省・知人訪問　　４．（１～３のどれでもない）その他

Ｑ５．あなたも含めて、何人での、どなたと一緒の旅行ですか。※子供や乳幼児も含む

（　　）人

２人以上
→ １．家族　２．友人　３．職場・学校等の団体旅行　４．その他

Ｑ６．ご一緒のみなさん全員の、今いる区域場所の訪問が何回目かご存じですか。※回答の合計はＱ５と一致

１．知らない　２．知っている→１回目の人数（　　）人、２回目の人数（　　）人
３回目の人数（　　）人、４回目以上の人数（　　）人

Ｑ７．（**市外にお住まいの方のみ**お答えください）

ご一緒のみなさん全員の、この市の訪問が何回目かご存じですか。※回答の合計はＱ５と一致

１．知らない　２．知っている→１回目の人数（　　）人、２回目の人数（　　）人
３回目の人数（　　）人、４回目以上の人数（　　）人

Q８．今回の旅行で訪れた**市内の観光地**と移動に用いた交通機関をご記入下さい。これから訪問する観光地についても予定をご記入下さい。※観光地は一覧表より、交通機関は下表より番号をお選び下さい。

他都市	→	ここに来る前にいた場所	→	ここに来る前にいた場所	→	現在地	→	これから行く予定の場所	→	これから行く予定の場所	→	他都市
		交通機関（　）		交通機関（　）		交通機関（　）		交通機関（　）		交通機関（　）		交通機関（　）

【表】交通機関

①ＪＲ新幹線　②ＪＲ在来線　③私鉄・地下鉄　④モノレール　⑤貸切バス・観光バス
⑥高速バス　⑦市内バス　⑧市内電車　⑨タクシー・ハイヤー
⑩レンタカー　⑪自家用車、社用・公用車　⑫その他

天神での立ち寄り先を教えて下さい

※別紙より番号でお選び下さい。

天神立ち寄り先（　　）

福岡市以外に立ち寄る市または都道府県がある場合はご記入ください

居住地	→	ここに来る前にいた市・県	→	ここに来る前にいた市・県	→	現在地	→	これから行く予定の市・県	→	これから行く予定の市・県	→	居住地
		市/県		市/県		当　市		市/県		市/県		
		交通機関（　）		交通機関（　）						交通機関（　）		交通機関（　）

※交通機関は上表から選択

Q９．今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えて下さい

１人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、市外・市内分を分けて記入

※ 今回の旅行がパック旅行である場合、費用が市内のみか、市外分を含むかを選択

※ □←表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用（旅行全体）	使用費用（市内分）
①交通費	円	（市内分）
②宿泊費	円	（市内分）
③土産代	円	（市内分）
④飲食費	円	（市内分）
⑤入場料	円	（市内分）
⑥その他	円	（市内分）
⑦パック料金	円	
	□市内分のみ　もしくは □市外分含む	

☆☆ 調査は以上です。ご協力、ありがとうございました。☆☆

福岡市観光客動態調査報告書

平成 22 年３月
(2010 年)

発行　福岡市 経済振興局 集客交流部 集客企画課
〒810-8620 福岡市中央区天神一丁目８番１号
TEL 092-711-4353
FAX 092-762-4442